可能性をつくる

あおぞら銀行

2026年度中間期決算および中期経営計画の進捗

2026年11月11日

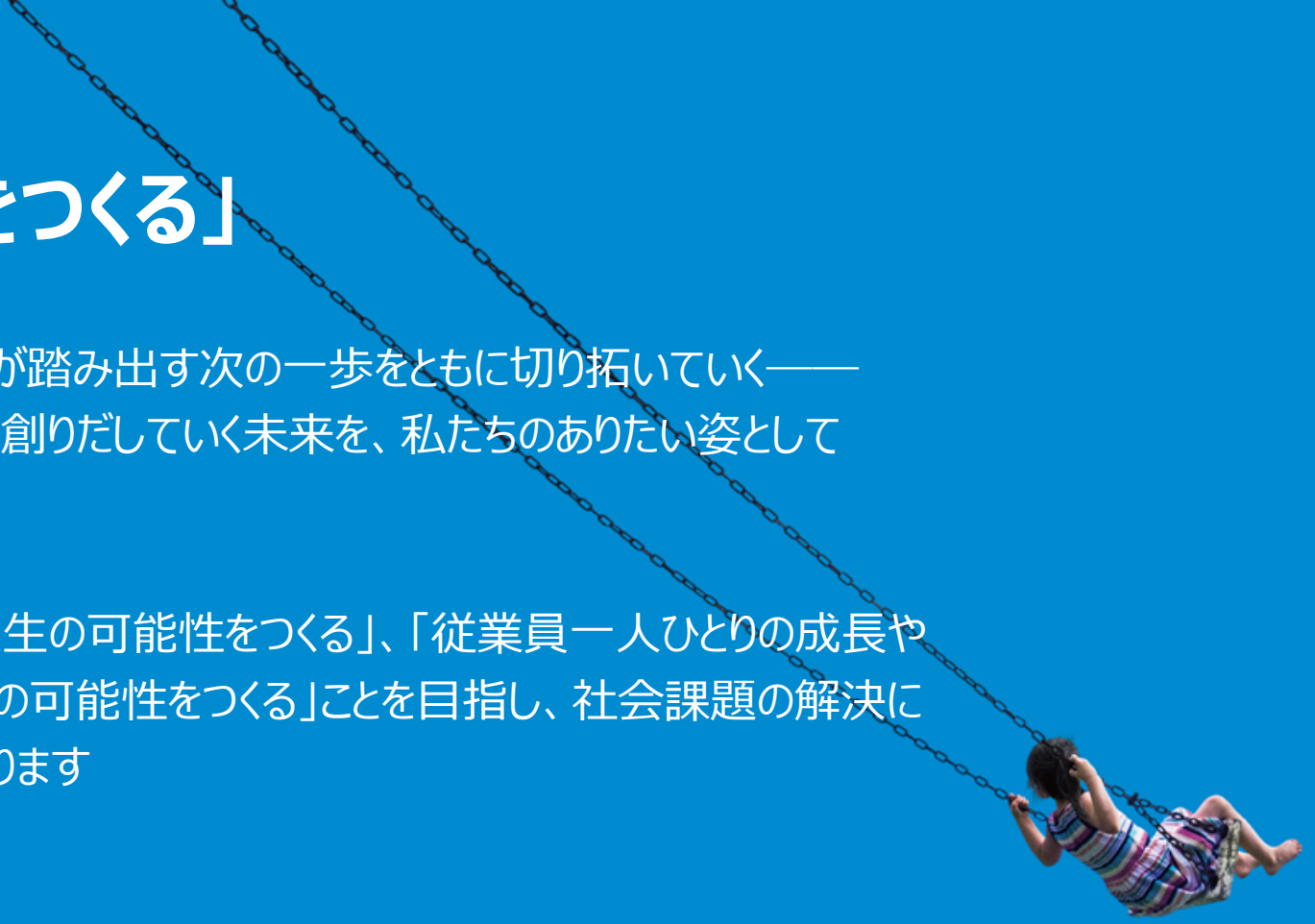


新ブランド・コミュニケーション

「可能性をつくる」

変化が加速する時代に、お客さま・社会・金融が踏み出す次の一歩をともに切り拓いていく――
「可能性をつくる」は、経営理念の実践を通じて創りだしていく未来を、私たちのありたい姿として
示しています

金融という手段を通じて、「お客さまの事業や人生の可能性をつくる」、「従業員一人ひとりの成長や
キャリアの可能性をつくる」、そして「社会や金融の可能性をつくる」ことを目指し、社会課題の解決に
資するビジネス機会を積極的に取り込んでまいります



可能性をつくる

あおぞら銀行

目次

01 中間期決算ハイライト 4

02 中間期決算概要 8

- **損益の概要** 9
- **資金利益** 10
- **非資金利益** 11
- **バランスシートの概要** 13
  - 国内貸出 14
  - 海外貸出 16
  - アセットクオリティ 17
  - 有価証券 18
  - 調達 20
  - 配当の状況 24
  - 自己資本比率（速報値） 25

03 中期経営計画「AOZORA2027」進捗状況 26

- **中期経営計画「AOZORA2027」の進捗** 27
  - 投資銀行ビジネス -LBOローン- 28
  - -コーポレートローン・エクイティ投資- 29
  - 大和証券グループとの提携 30
  - GMOあおぞらネット銀行 31

04 部門別・グループ会社実績 32

- **部門別実績** 33
  - 投資銀行部門 34
  - 市場国際部門 36
  - カスタマーリレーション部門 37
  - GMOあおぞらネット銀行 38
- **当行および主要連結子会社等の実績・連単差** 40

(注) 本資料においては、「親会社株主に帰属する当期純利益」を「親会社株主純利益」と記載　　金額は単位未満を切り捨てにて表示
また、本資料において「第1四半期」「1Q」の記載は4-6月期、「第2四半期」「2Q」は7-9月期、「中間期」「1H」は4-9月期、「第3四半期」「3Q」は10-12月期、「第4四半期」「4Q」は1-3月期を示す

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

中間期決算ハイライト

01

キーメッセージ

回復から、次の成長に向けて －経常利益：233億円（前年同期比＋52%） / 親会社株主純利益：189億円（同＋39%）－

基礎収益力の高まり

1. 貸出残高と利ざやが揃って拡大、国内資金利益が前年同期比増加

- 国内貸出残高*1は2026/3末比約2,200億円増加（＋8%）、大和証券グループとの提携により、資本コストや株価を意識する企業向けの新規貸出が増加
- 個人預金は増加に転じ、ALM運営の効果により、2Qの預貸利ざや（国内預貸金利回り差）は1.32%に拡大（前年同期比＋30bp）

2. レガシー資産*2が減少、海外資金利益が回復

- 外国有価証券および米国オフィス向けローン（破綻懸念先）の売却をこれまで進めてきたことに加え、調達費用の減少等も寄与し、海外資金利益は前年同期から回復
- 中間期で外国有価証券を238百万ドル売却、クレジットETFは今年度中の売却完了を目指す。米国オフィス向けローンは中間期に2件、10月に1件減少

培ってきた強みの発揮

1. 活況なM&Aがもたらす収益

- LBOローンの貸出関連手数料やバイアウト関連のエグジットによる組合出資利益が高水準で推移

2. 資産管理型ビジネスの拡大

- 個人顧客の預り資産残高（ファンドラップ・投資信託）は2026/3末比約1,500億円増加（+20%）
- オリジネーション＆ディストリビューション（O＆D）ビジネスを推進し、シンジケートローン等の中間期の販売額は前年度実績を上回るペースで進捗

3. GMOあおぞらネット銀行の成長

- 法人口座数は2026/3末比約3万件増加（＋13%）。預金残高増加と40%程度の預金金利追随率により資金利益が増加、当期純利益は25億円（前年同期は1億円）

次の成長に向けて

1. 日本経済の成長を取り込む

- M&A件数の増加や大型化に対応するため、6行共同でLBOローンを提供するプライベート・デット・ファンドを設立
- 成長戦略の策定や実行に必要な資金が足りない企業向けに、アーサー・ディ・リトル社と共同で戦略策定と資金を同時に提供する投資会社を設立

2. 新たなビジネス機会の発掘

- インオーガニックな成長に向け、7月に成長戦略室を新設

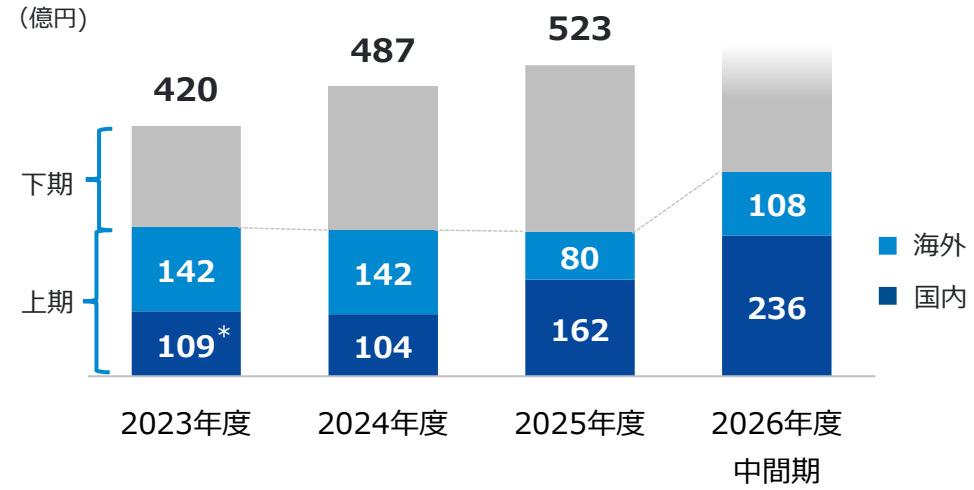
*1 政府向け貸出を除く
*2 2022年度の欧米金利上昇局面以前に取得し、中長期的に含み損の処理を行う方針とした外国有価証券および米国オフィス向けローンのうち破綻懸念先を「レガシー資産」と定義

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

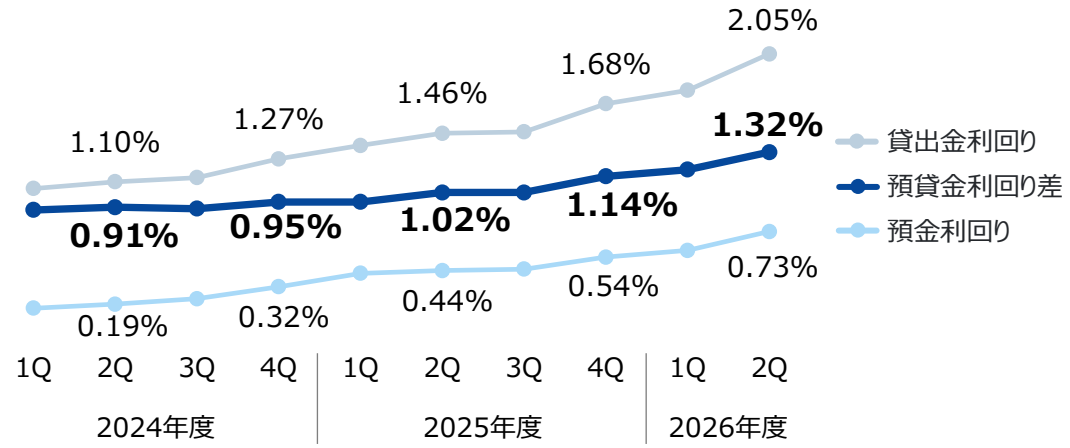
回復から、次の成長に向けて

基礎収益力の高まり

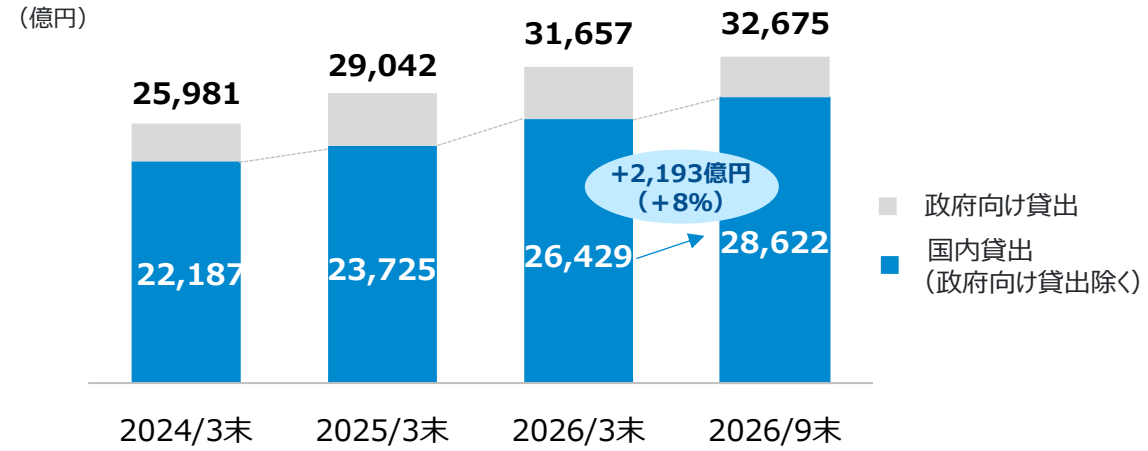
資金利益



国内預貸金利回り差

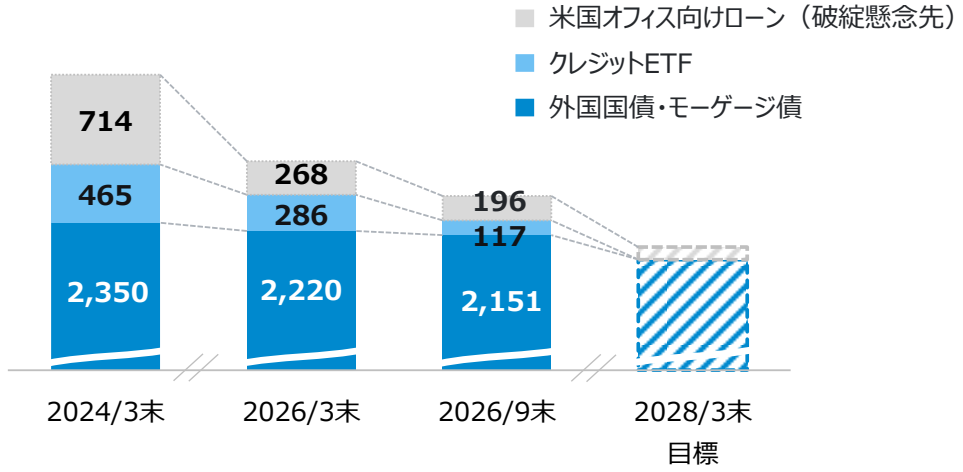


国内貸出残高



レガシー資産残高目標

（百万米ドル）



* 投信解約益33億円を含む

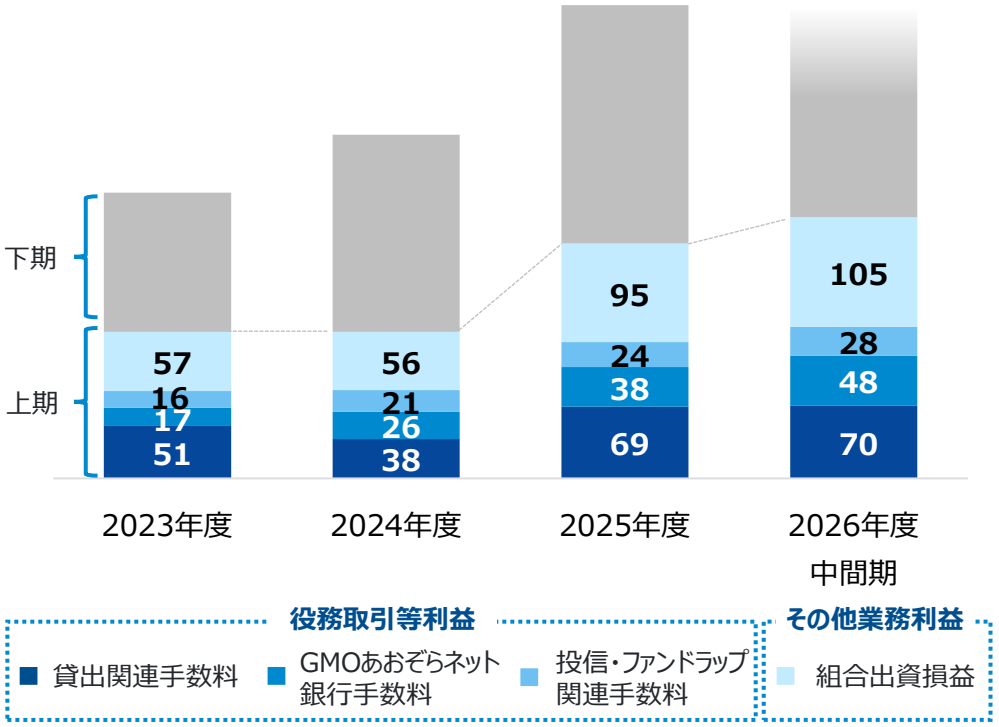
© 2026 Aozora Bank, Ltd.

回復から、次の成長に向けて

培ってきた強みの発揮

貸出関連手数料、組合出資損益、投信・ファンドラップ関連手数料、GMOあおぞらネット銀行手数料

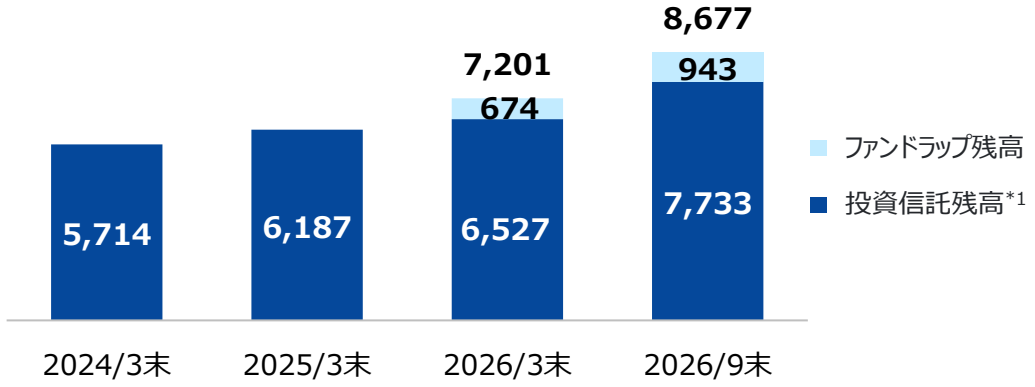
（億円）



資産管理型ビジネス ー投資信託*1・ファンドラップ預り資産残高ー

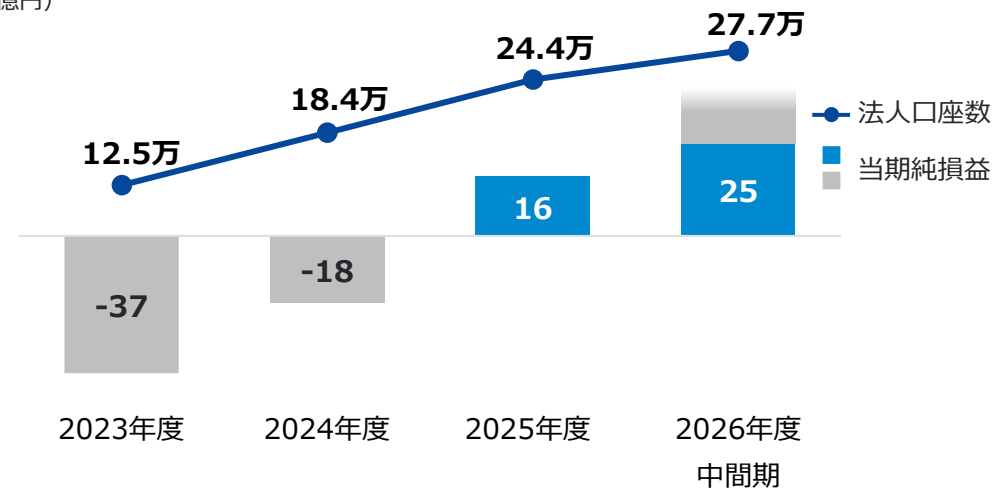
（億円）

大和証券協業分野



GMOあおぞらネット銀行 法人口座数*2および当期純損益*3

（億円）



*1 あおぞら投信の預り資産残高を含む
*2 法人口座数は期末時点
*3 GMOあおぞらネット銀行単体ベース

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

中間期決算概要

02

損益の概要

(単位：億円)	2025年度 中間期	2026年度 中間期	前年同期比 増減	前年同期比 増減率	2026年度 予想	進捗率
連結粗利益	**521**	**586**	**+65**	**+12%**	**1,110**	**53%**
資金利益	243	① 345	+102	+42%		
非資金利益	278	241	-36	-13%		
役務取引等利益	157	168	+10	+7%		
特定取引利益	15	② 20	+4	+27%		
その他業務利益 *1	97	145	+47	+48%		
国債等債券損益	7	③ -91	-98	-		
経費	-321	④ -338	-17	+5%		
持分法投資損益	10	14	+4	+42%		
株式等関係損益等	3	4	+0	+27%		
連結実質業務純益*2	**213**	**266**	**+52**	**+25%**	**440**	**61%**
与信関連費用	-60	-40	+19	-		
経常利益	**153**	**233**	**+79**	**+52%**	**370**	**63%**
特別損益	-0	-0	+0	-		
税金等調整前純利益	**153**	**233**	**+79**	**+52%**		
法人税等	-16	⑤ -31	-15	-		
非支配株主純損益	-1	-11	-10	-		
親会社株主純利益	**136**	**189**	**+53**	**+39%**	**270** ⑥	**70%**

*1 国債等債券損益を除く
*2 持分法投資損益および株式等関係損益等（＝株式等関係損益+投資損失引当金純繰入+株式派生商品損益）を含む

① 国内（+46%）、海外（＋34%）ともに大幅増加

② LBOローンの貸出関連手数料やGMOあおぞらネット銀行の決済手数料が伸長し、役務取引等利益が増加。その他業務利益*1は、組合出資損益におけるバイアウト案件のエグジットの集中等もあり、前年同期比大幅増加

③ 含み損のある有価証券を売却、うちレガシー資産の売却で▲70億円

④ 連結粗利益の増加により、OHRは58%へ改善（前年同期は62%）

⑤ 税効果の影響で実効税率は依然低位だが、通期では上昇を見込む

⑥ 通期予想に対する進捗率は70%だが、レガシー資産の売却や税効果の影響を勘案して、現時点で業績予想の修正は行わない

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

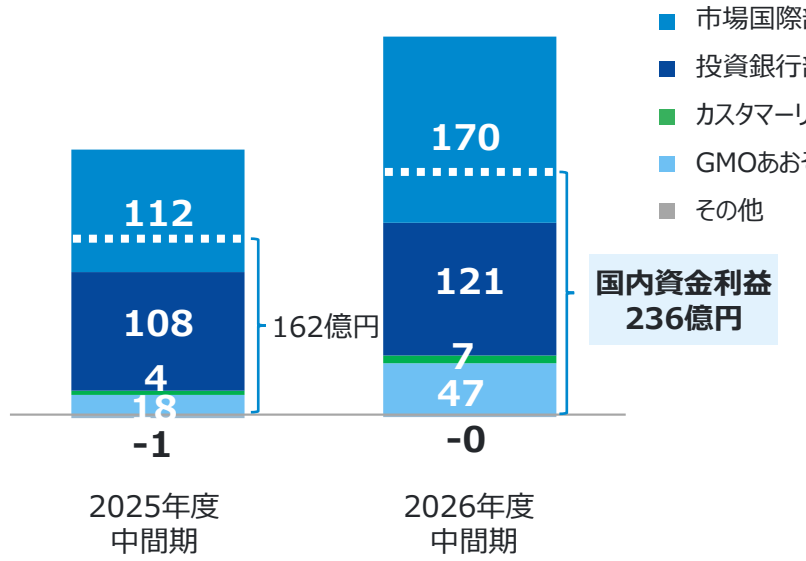
資金利益

（単位：億円）	2025年度 中間期	2026年度 中間期	前年同期比 増減	前年同期比 増減率
資金利益	**243**	**345**	**+102**	**+42%**
国内	162	236	+74	+46%
海外	80	108	+27	+34%
資金運用収益	**788**	**902**	**+114**	**+15%**
うち、貸出金利息	590	667	+77	+13%
うち、有価証券利息配当金	127	145	+17	+14%
資金調達費用	**-544**	**-557**	**-12**	**-**
うち、預金・譲渡性預金利息	-141	-217	-75	-
うち、レポ利息等	-80	-81	-0	-
うち、スワップ支払利息	-269	-207	+62	-

* 管理会計ベース

部門別内訳* （部門別実績▷P33～）

（億円）



円金利感応度（試算）

今後の円金利上昇による年間の資金利益影響額	**+35億円**

試算前提

- 単体ベース、管理会計ベース
- 全年限において0.25%金利上昇
- バランスシートは2026年9月末から不変
- 預金金利追随率は75%

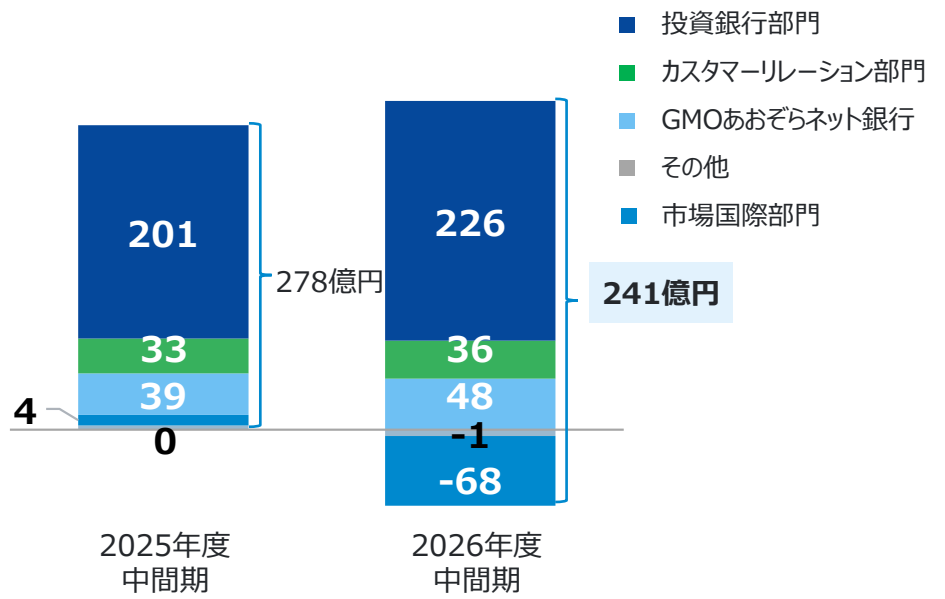
© 2026 Aozora Bank, Ltd.

非資金利益①

（単位：億円）	2025年度 中間期	2026年度 中間期	前年同期比 増減	前年同期比 増減率
非資金利益	**278**	**241**	**-36**	**-13%**
役務取引等利益	**157**	**168**	**+10**	**+7%**
うち、貸出関連手数料	69	70	+0	+1%
うち、GMOあおぞら手数料	38	48	+10	+26%
うち、投信・ファンドラップ関連手数料	24	28	+4	+20%
特定取引利益	**15**	**20**	**+4**	**+27%**
うち、デリバティブ販売収益	7	12	+4	+60%
その他業務利益[*1]	**97**	**145**	**+47**	**+48%**
うち、組合出資損益	95	105	+10	+11%
不動産/不良債権関連	56	26	-29	-53%
バイアウト/ベンチャー関連	26	72	+45	+171%
その他	12	7	-5	-45%
うち、デリバティブ販売収益	15	25	+9	+61%
国債等債券損益	**7**	**-91**	**-98**	**-**
うち、レガシー（有価証券）	1	-70	-72	-

部門別内訳[*2]（部門別実績▷P33～）

（億円）



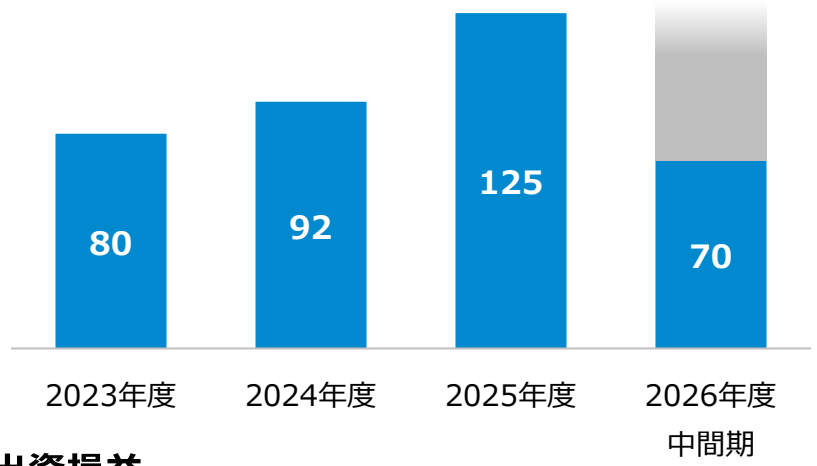
*1 国債等債券損益を除く
*2 管理会計ベース

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

非資金利益②

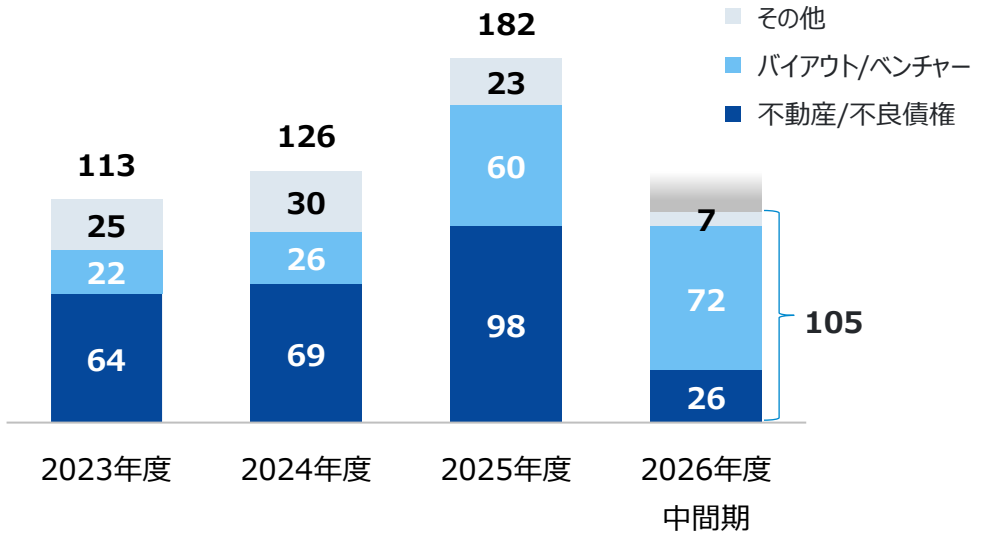
貸出関連手数料

（億円）



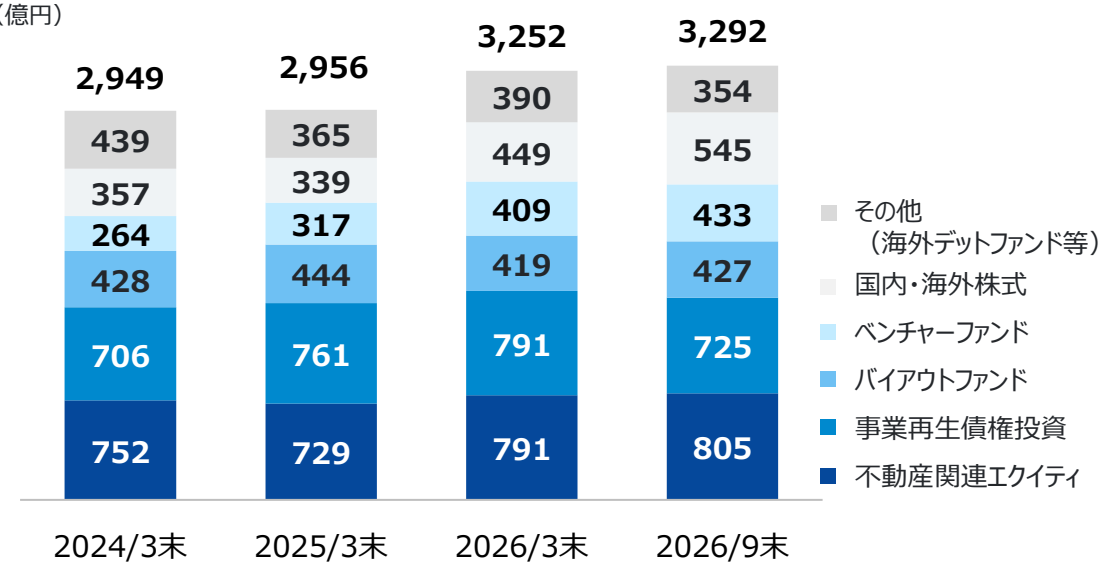
組合出資損益

（億円）



エクイティ投資に係る資産残高

（億円）



© 2026 Aozora Bank, Ltd.

バランスシートの概要

2026/3末比

総資産　8.9兆円　+3,265億円

貸出金
4.5兆円　+824億円

国内	3.2兆円	+1,018億円
海外 (海外比率)	1.3兆円 (28.5%)	-193億円

有価証券
1.5兆円　+809億円

その他
(流動性準備資産等)
2.8兆円　+1,631億円

預金等
6.7兆円　+1,377億円

譲渡性預金、
借用金(日銀借入を除く)、
社債を含む

その他
1.6兆円　+1,616億円

純資産
0.5兆円　+270億円

* 単体ベース

円貨バランスシート*

(億円)

運用　63,078

変動：75%
固定：25%

貸出金 28,963
有価証券 6,866
日銀当座 6,768
その他 20,481

調達　63,078

定期預金 35,807
個人：43%
法人：57%

流動性預金 19,661
個人：86%
法人：14%

その他 7,610

外貨バランスシート*

(百万米ドル)

運用　14,020

貸出金 8,148
有価証券 4,974
その他 898

調達　14,020

社債・預金 528
中・長期調達 8,032
市場性調達 2,552
短期調達 2,689
その他 218

■ 中・長期調達：
- 通貨スワップ
- 長期為替フォワード

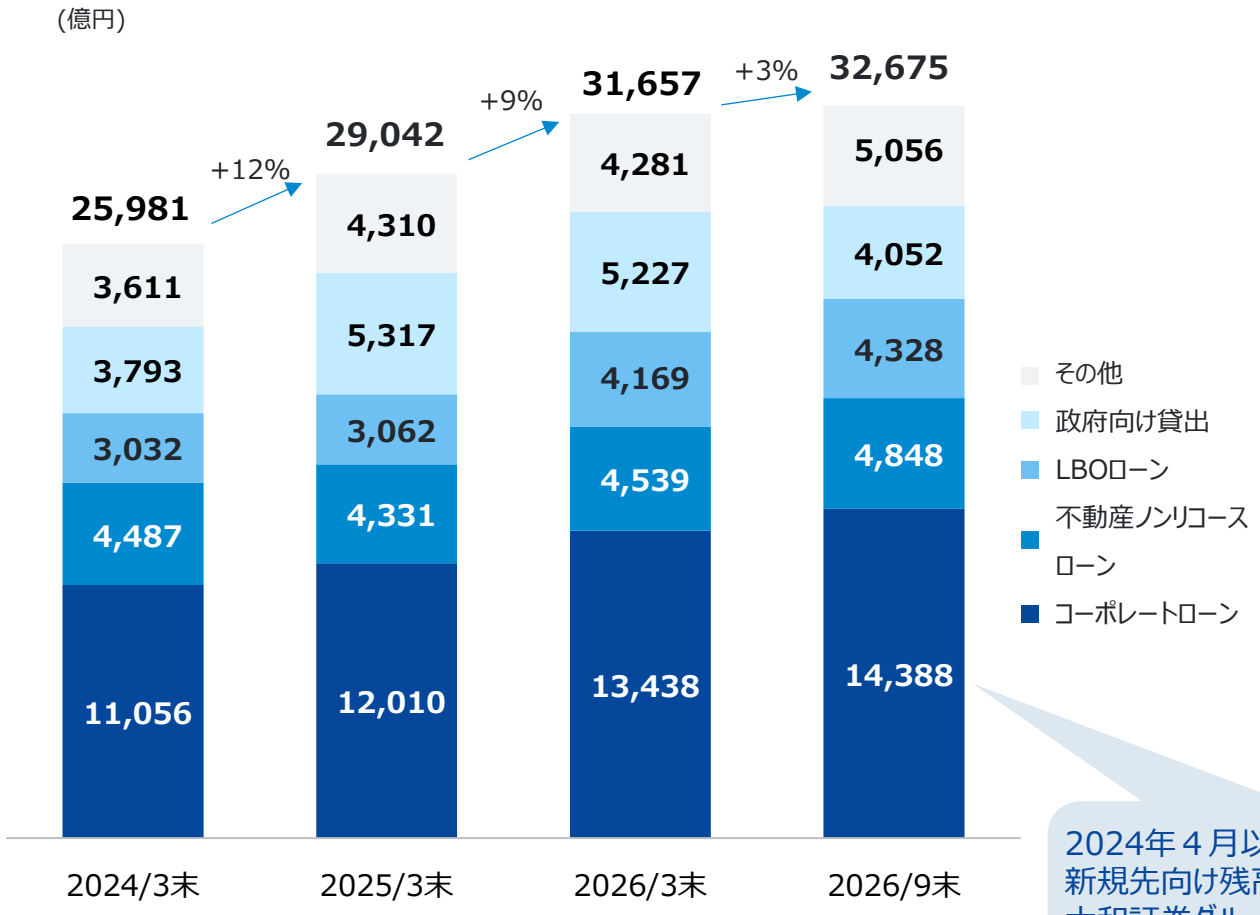
■ 市場性調達：
- レポ
- インターバンク
- TRS

■ 短期調達：
- 為替フォワード

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

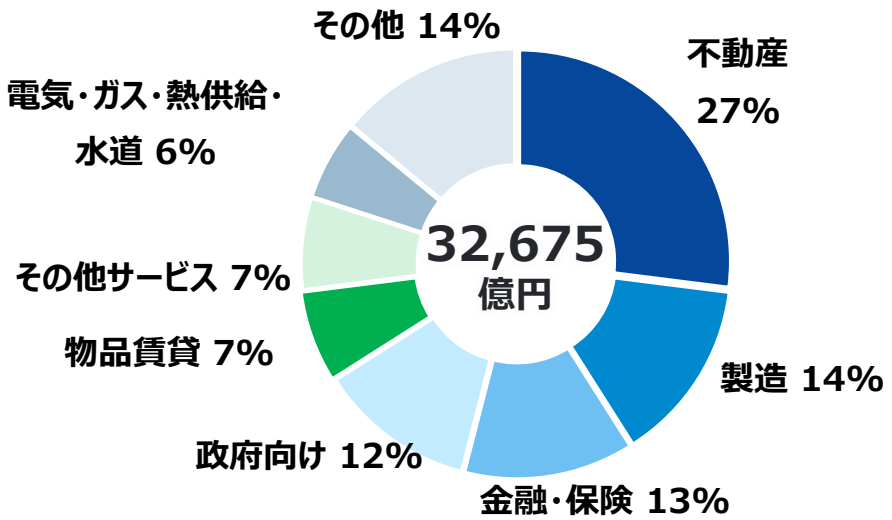
国内貸出

国内貸出残高内訳*



2024年４月以降約3,300億円の増加。
新規先向け残高は約2,900億円。
大和証券グループとの提携効果もあり、
顧客基盤が拡大

国内貸出業種別内訳



* 管理会計ベース

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

国内貸出 ―国内不動産向け貸出の運営方針―

国内不動産与信管理体制

- ポートフォリオ全体に対する影響を踏まえ、不動産関連の投融資にかかるリスク額に対し取組上限額を設定
- インフレや金利動向を受けた将来の期待利回りの変化や建築費の高騰等、不動産市況のリスクをシミュレーションし、環境変化時の与信余力を把握
- 不動産市場の予兆管理のために、投資需要および実需面からの賃貸・売買市場の動向や売買規制による影響等をモニタリング
- 不動産アセットタイプ、エリアの特徴、物件の優位性等、個別条件を反映した保守的な鑑定評価を使った適切な保全運営
- ノンリコースローンはアセットタイプの分散を意識し、ボラティリティの高いアセットタイプ（例：ホテル）やデータセンターへの取り組みは限定的

国内不動産ポートフォリオの状況

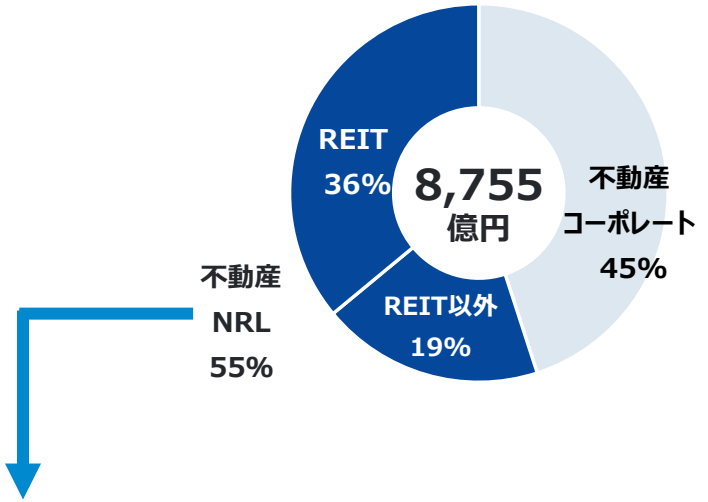
ノンリコースローン（NRL）

- シニアローンのみ。REIT向けローンのLTV水準は50%程度
- 投資エリアは東京、首都圏が85%。その他も関西・政令指定都市等の流動性高いエリア

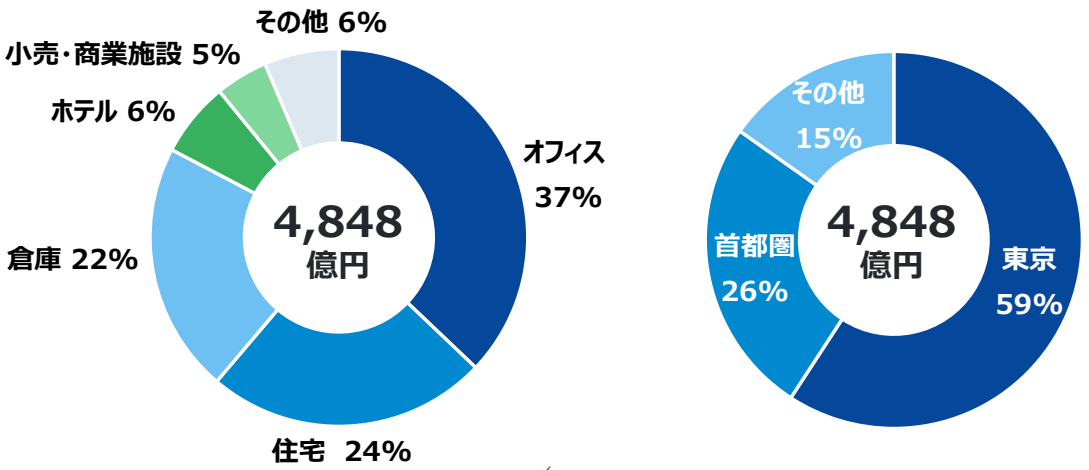
コーポレートローン

- 原則有担保（一部の大手総合デベロッパーを除く）、純資産比率等の財務指標を重視した取り組み

不動産向け貸出：アセットタイプ別割合



NRL：アセットタイプ・地域別割合

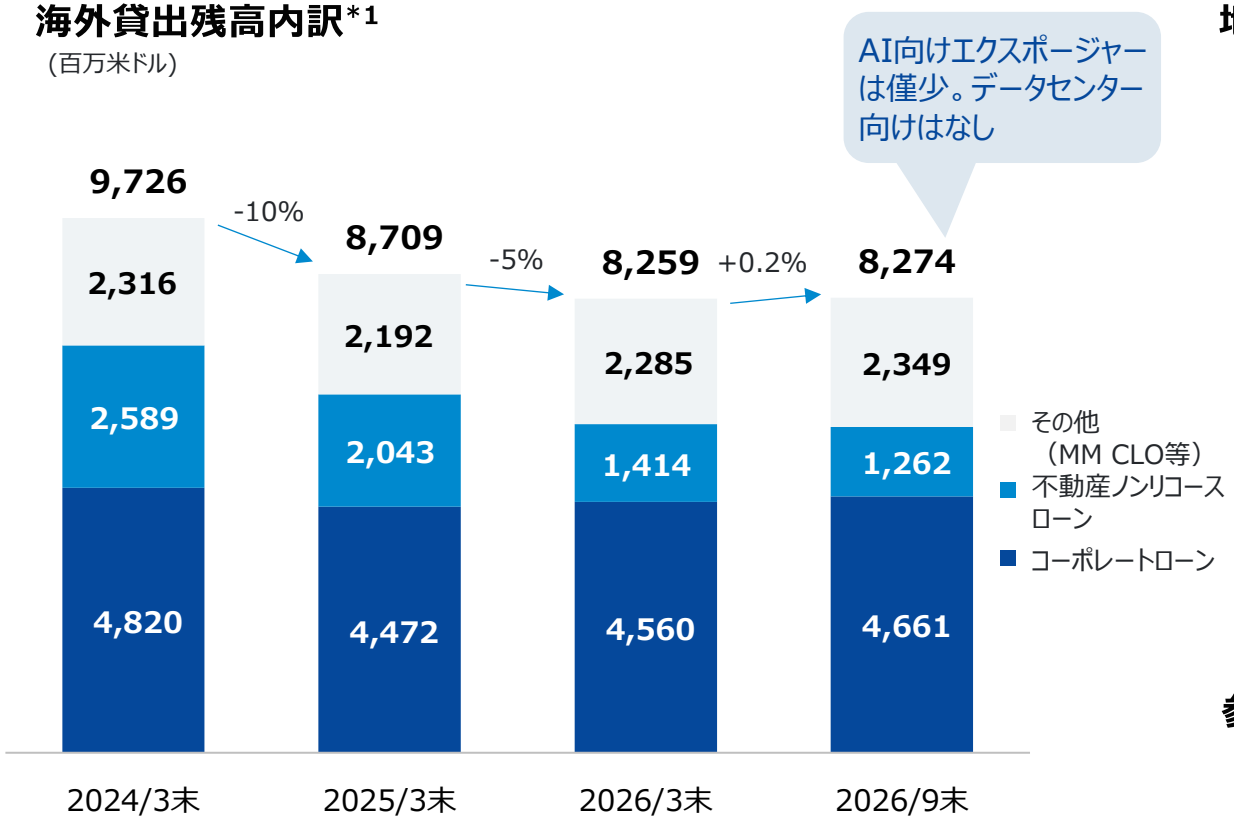


© 2026 Aozora Bank, Ltd.

海外貸出

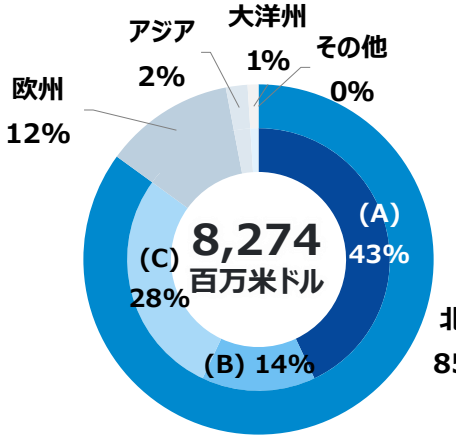
海外貸出残高内訳*1

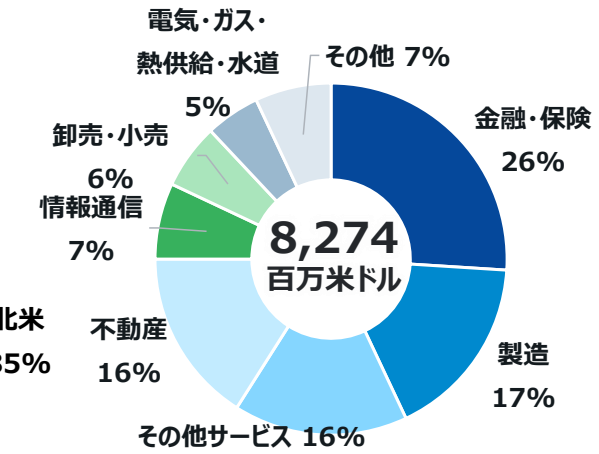
（百万米ドル）



2024/3末	2025/3末	2026/3末	2026/9末	
14,731	13,022	13,206	13,013	円建て残高（億円）
36%	31%	29%	28%	海外比率
¥151.46	¥149.53	¥ 159.89	¥ 157.27	為替レート（USD/JPY）

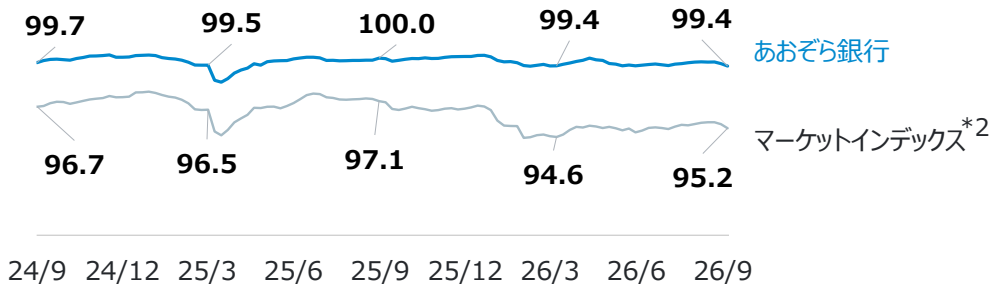
地域別、貸出業種別内訳





（A）コーポレートローン
（B）不動産ノンリコースローン
（C）その他（MM CLO等）

参考：平均ビッドプライス推移 ーー北米コーポレートローンー



*1 管理会計ベース
*2 出典：PitchBook Data, Inc.

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

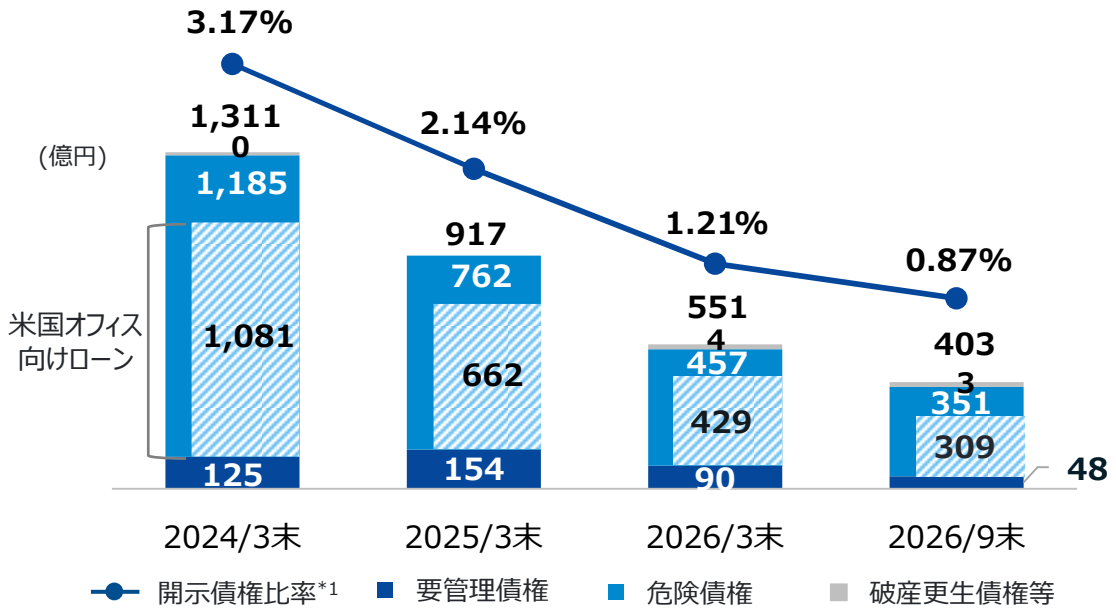
アセットクオリティ

与信関連費用

（単位：億円）	2025年度 中間期	2026年度 中間期	増減
与信関連費用	**-60**	**-40**	**+19**
米国オフィス向けローン	-42	9	+52
上記以外	-17	-50	-32

国内LBOローンの新規実行に伴う一般貸倒引当金等が中心

金融再生法開示債権



米国オフィス向けローンの状況

10月に破綻懸念先1先減少、足元の残高は150百万米ドル

	（単位：百万米ドル）	2023年12月末 残高	引当額	引当率*2	先数	2025年3月末 残高	引当額	引当率*2	先数	2026年3月末 残高	引当額	引当率*2	先数	2026年9月末 残高	引当額	引当率*2	先数
	LTV100%未満	1,174	37	3.1%	26	994	48	4.8%	23	719	41	5.7%	17	606	44	7.3%	15
レガシー資産	LTV100%超（破綻懸念先）	719	320	44.5%	21	442	187	42.3%	14	268	110	41.2%	8	196	74	37.8%	6
	合計	**1,893**	**357**	**18.8%**	**47**	**1,437**	**235**	**16.3%**	**37**	**987**	**151**	**15.3%**	**25**	**802**	**118**	**14.7%**	**21**

*1 総与信に占める開示債権の割合
*2 総与信ベース

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

有価証券

残高

（単位：億円）	2025年3月末	2026年3月末 A	2026年9月末 B	増減 B - A
国内債	2,654	3,317	3,989	+671
株式	299	377	576	+199
外国債券	5,709	6,008	5,976	-32
その他*1	4,890	4,644	4,615	-28
合計	**13,554**	**14,348**	**15,157**	**+809**
USD/JPY	*¥149.53*	*¥159.89*	*¥157.27*	*¥-2.62*

評価損益

2025年3月末	2026年3月末 C	2026年9月末 D	増減 D - C
-66	-86	-135	-48
125	185	357	+171
-496	-451	-630	-178
-107	-13	154	+168
-545	**-366**	**-254**	**+111**
-507	**-295**	**-81**	**+214**

ヘッジ手段の評価損益を含めた有価証券評価損益

市場リスクの状況（10BPV）*2

（単位：億円）	2025年3月末	2026年3月末	2026年9月末
ALM証券投資	-10	-15	-16
うち、円金利リスク	-5	-5	-5
うち、米金利リスク	-6	-9	-9

債券デュレーション*2

	2025年3月末	2026年3月末	2026年9月末
国債	7年	7年	5年
地方債	5年	8年	9年
米国国債	4年	4年	4年
モーゲージ債	8年	8年	8年

*1 ETF、組合出資、REIT、投資信託等を含む
*2 単体ベース

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

有価証券 非レガシー/レガシー資産*1

非レガシー/レガシー資産残高・評価損益

	残高 (億円)			評価損益 (億円)*2		
	2025年3月末	2026年3月末	2026年9月末	2025年3月末	2026年3月末	2026年9月末
非レガシー資産	**9,405**	**10,202**	**11,522**	**58**	**183**	**305**
国内債	2,654	3,317	3,989	-59	-69	-90
株式	299	377	576	125	185	357
外国債券	2,814	2,884	3,093	-12	-2	-97
その他	3,637	3,623	3,863	4	70	136

	残高 (億円)			評価損益 (億円)*2		
	2025年3月末	2026年3月末	2026年9月末	2025年3月末	2026年3月末	2026年9月末
レガシー資産	**4,148**	**4,145**	**3,635**	**-566**	**-479**	**-387**
うちベアファンド	659	634	606			
	残高 (原通貨 百万)*3			評価損益 (億円)*2		
米国国債 (USD)	1,150	1,150	1,150	-95	-75	-59
欧州国債 (EUR)	315	315	315	-64	-55	-54
モーゲージ債 (USD)	767	713	644	-272	-258	-236
クレジットETF (投資適格社債) (USD)	465	286	118	-134	-89	-36

*1 2022年度の欧米金利上昇局面以前に取得し、中長期的に含み損の処理を行う方針とした外国有価証券を「レガシー資産」と定義
*2 評価損益はヘッジ手段（デリバティブ、ベアファンド）を含む
*3 額面/簿価ベース。ヘッジ手段を含まない

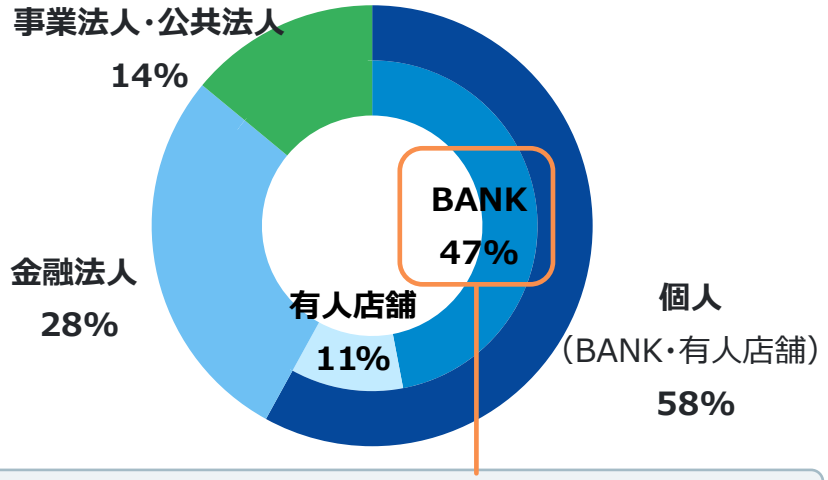
© 2026 Aozora Bank, Ltd.

調達

（単位：億円）	2025年3月末	2026年3月末 A	2026年9月末 B	増減 B - A
調達（連結ベース）	**62,761**	**66,457**	**67,835**	**+1,377**
預金・譲渡性預金	56,729	60,944	62,887	+1,942
借用金*1	4,786	4,933	4,948	+15
社債	1,246	579	-	-579
調達（単体ベース）*2（A）	**53,595**	**54,572**	**56,306**	**+1,733**
個人預金（B）	31,817	30,815	32,605	+1,789
法人預金*3	20,531	23,176	23,700	+523
社債	1,246	579	-	-579
個人調達比率（B）/（A）	59%	56%	58%	
預貸率	71%	74%	73%	

GMOあおぞらネット銀行からの預金受入により、グループ全体の資金運用効率を強化

顧客層別（単体ベース）*2



BANK預金内訳

	2025年3月末	2026年3月末	2026年9月末
流動性預金	57.9%	57.1%	53.8%
定期預金	42.1%	42.9%	46.2%

*1 日銀借入を除く
*2 管理会計ベース
*3 譲渡性預金・借用金含む、日銀借入を除く

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

金利正常化を踏まえた調達方針

環境認識

- 個人の株式や投信等への投資が増加。デジタル化に伴い預金は動きやすくなり、金利感応度が高まる中、今後預金伸び率は鈍化すると想定
- こうした環境下、預金での調達に加え、市場調達（普通社債等）も組み合わせたALM運営の正常化が重要

当行調達方針

調達コストを意識しつつ、個人預金、法人預金、社債のミックスによるバランスの取れた調達を図る

個人預金の運営

- **顧客基盤の拡大や小口の新規口座積み上げにより、貯蓄性預金を増加させる**
- **効果的な条件設定と調達コストのバランスを取った運営**
  - ✓ タイミング・市場金利・他行の流動性預金および定期預金を意識した金利設定
  - ✓ 効果的なキャンペーンやマーケティングの実施

法人預金の運営

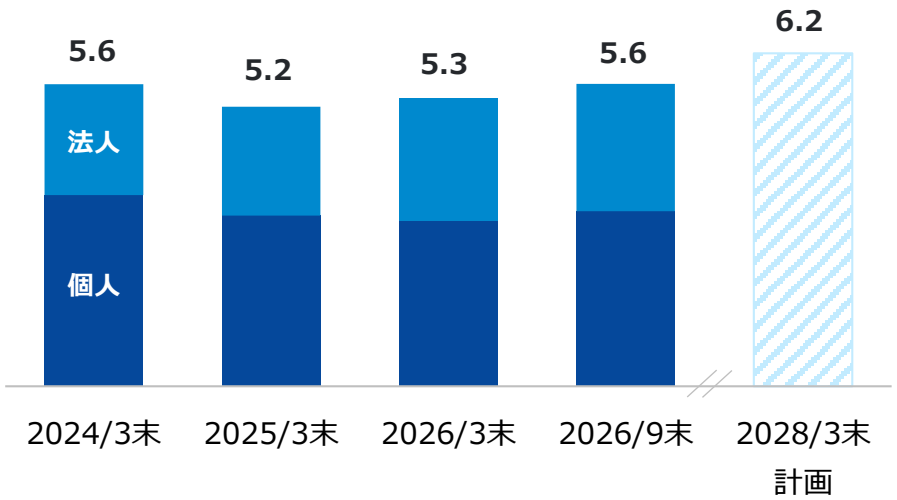
- **法人の運用ニーズを捉え、既往先・新規先へのアプローチに加え大和証券グループの紹介を活用した預金獲得を継続**
- **GMOあおぞらネット銀行の預金の一部を活用し、グループ全体の運用効率を向上**

社債の発行

- **マーケットの状況を注視しながら、社債発行の再開を検討**

預金残高実績・計画*

(兆円)



* 単体ベース

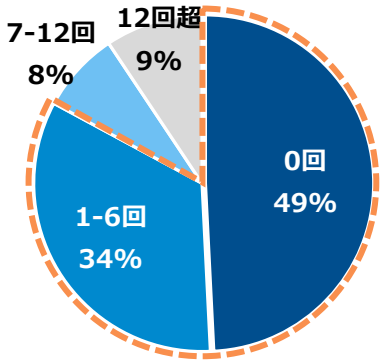
© 2026 Aozora Bank, Ltd.

参考：当行個人預金の特徴*1

1. 貯蓄性預金が多い

- 生活決済口座ではないため、口座の約半数は年間出金回数ゼロ

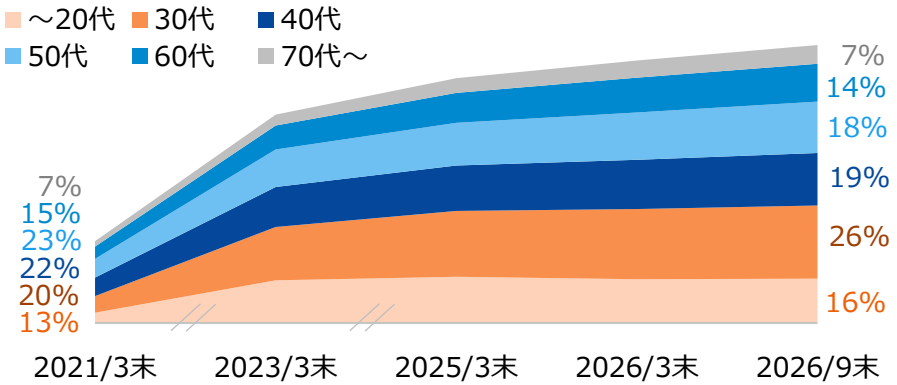
BANK普通預金の1年間の出金回数比率（口座数ベース、25/10～26/9末）



2. 若年層・現役世代からシニアまで幅広い預金者層

- BANKの普及により顧客層が拡大

BANK顧客の年代別口座数および割合推移

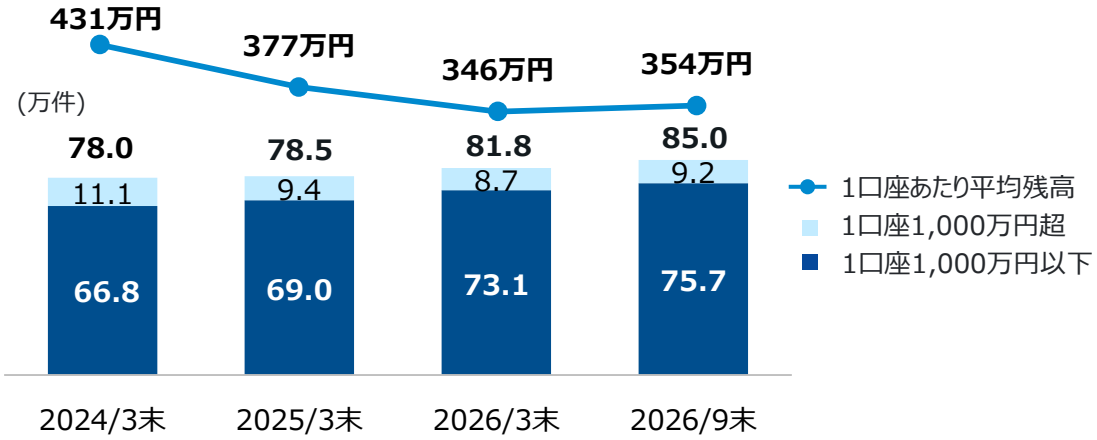


*1 データはすべて行内管理ベース
*2 DC定期を除く

3. 小口分散化が進捗

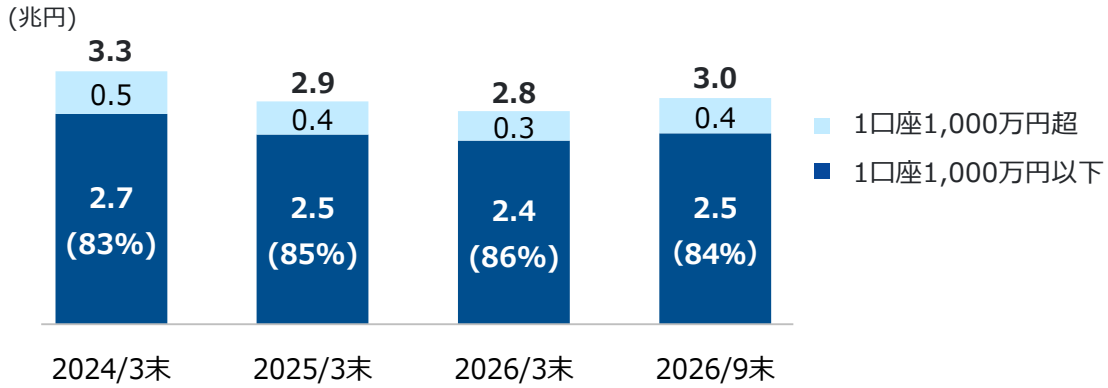
- 口座数増加に伴い、1口座あたりの平均残高は小口化

口座数および1口座あたり平均残高推移



- 貯蓄目的での利用が多く、1口座1,000万円以下の残高は安定推移

1口座1,000万円以下・超の残高合計*2推移



あおぞら銀行

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

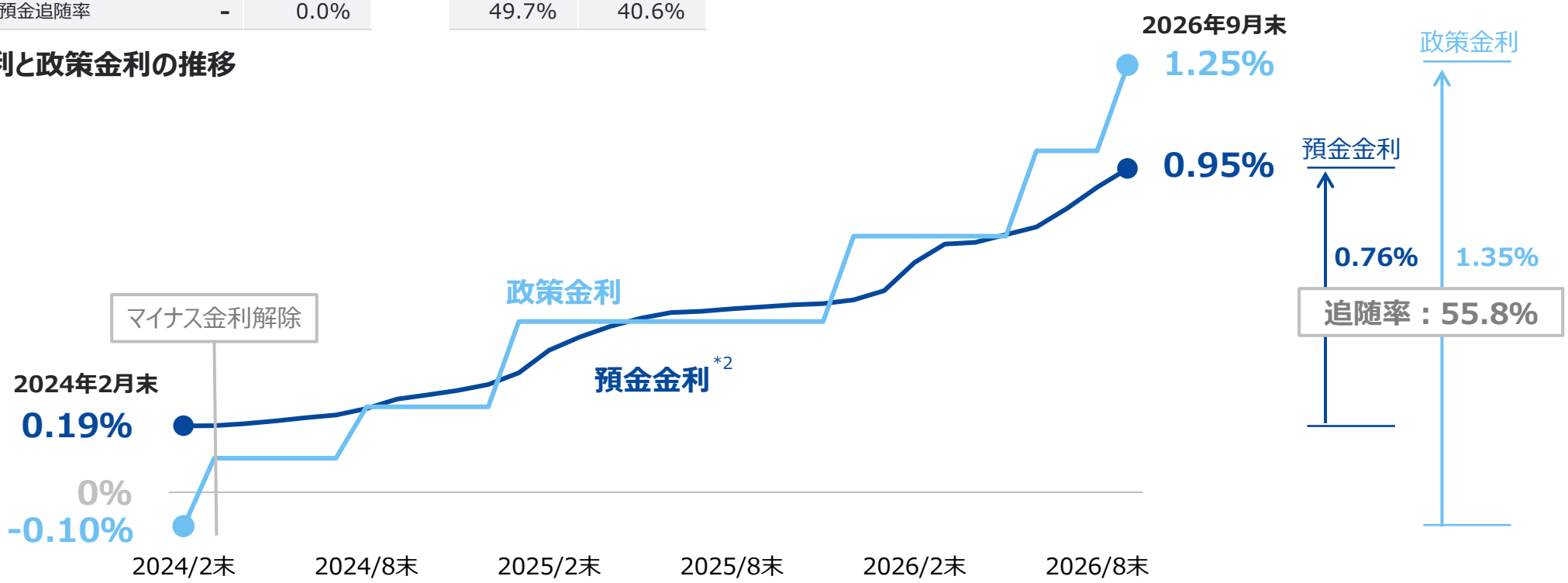
参考：当行預金金利追随率

追随率推移*1

	2024年2月末	2024年3月末	2026年8月末	2026年9月末
預金金利*2	0.19%	0.19%	0.89%	0.95%
うち、BANK流動性預金	0.20%	0.20%	0.75%	0.75%
政策金利	-0.10%	0.10%	1.00%	1.25%
追随率*3	**-**	**0.3%**	**63.5%**	**55.8%**
うち、BANK流動性預金追随率	-	0.0%	49.7%	40.6%

- 個人預金の口座数拡大を企図し、BANK普通預金をはじめ魅力的な金利を提供できる水準として、計画上の預金金利追随率は75%に設定
- 2024年３月のマイナス金利解除以降の実績は、９月末時点までの政策金利1.35%上昇に対し預金金利0.76%上昇と、追随率は60%程度の水準でコントロール

当行預金金利と政策金利の推移



*1 金利はすべて月末時点
*2 単体ベース、借用金を含む内部管理ベース
*3 2024年2月末からの預金金利上昇幅÷同期間の政策金利上昇幅で算出

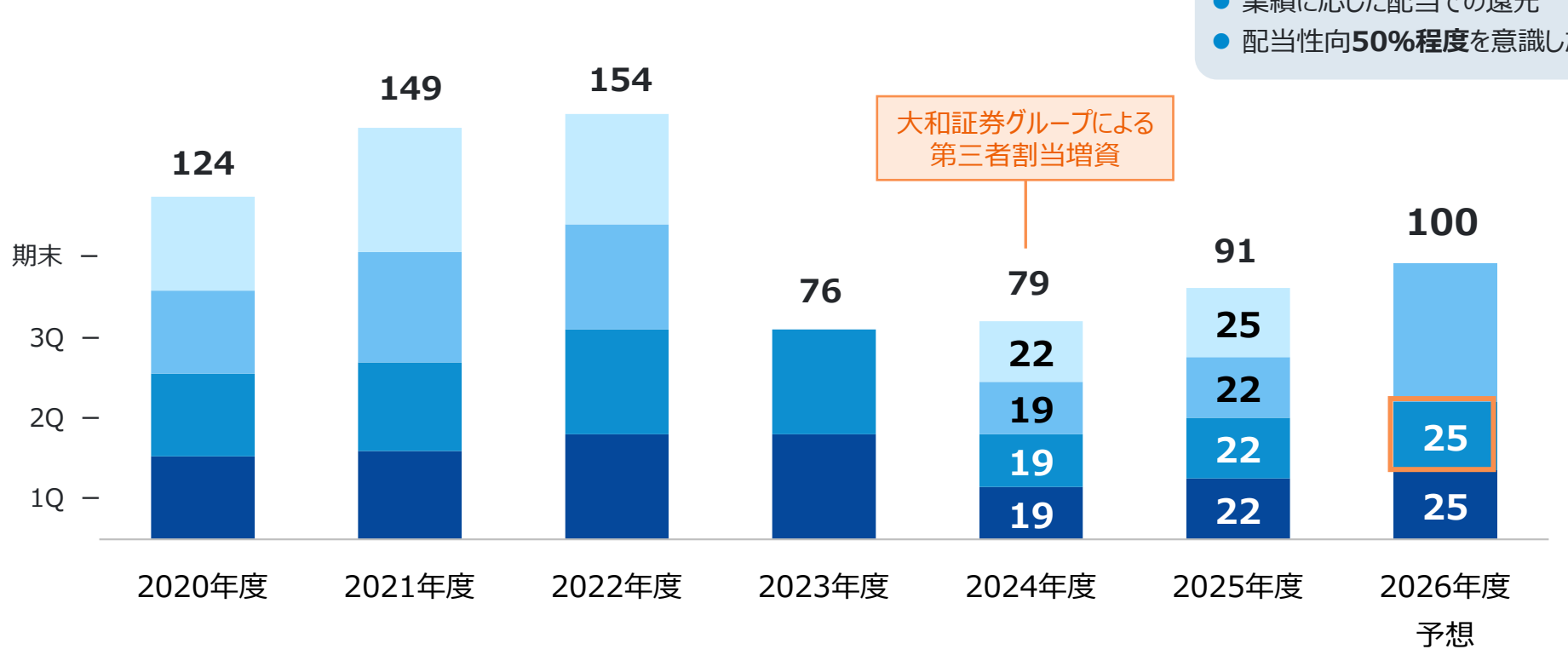
© 2026 Aozora Bank, Ltd.

配当の状況

- 2026年度第2四半期配当は1株あたり**25円**に決定（年間配当予想100円の4分の1）

中期経営計画の還元方針
「安定的な株主還元」
- 業績に応じた配当での還元
- 配当性向**50%程度**を意識した運営

1株あたり年間配当額推移



	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度予想
配当性向	49.9%	49.7%	206.2%	-	51.2%	49.0%	**51.3%**
親会社株主純利益	259億円	350億円	87億円	-499億円	205億円	257億円	**270億円**
発行済株式総数（期末）	118百万株	118百万株	118百万株	118百万株	139百万株	139百万株	**ー**

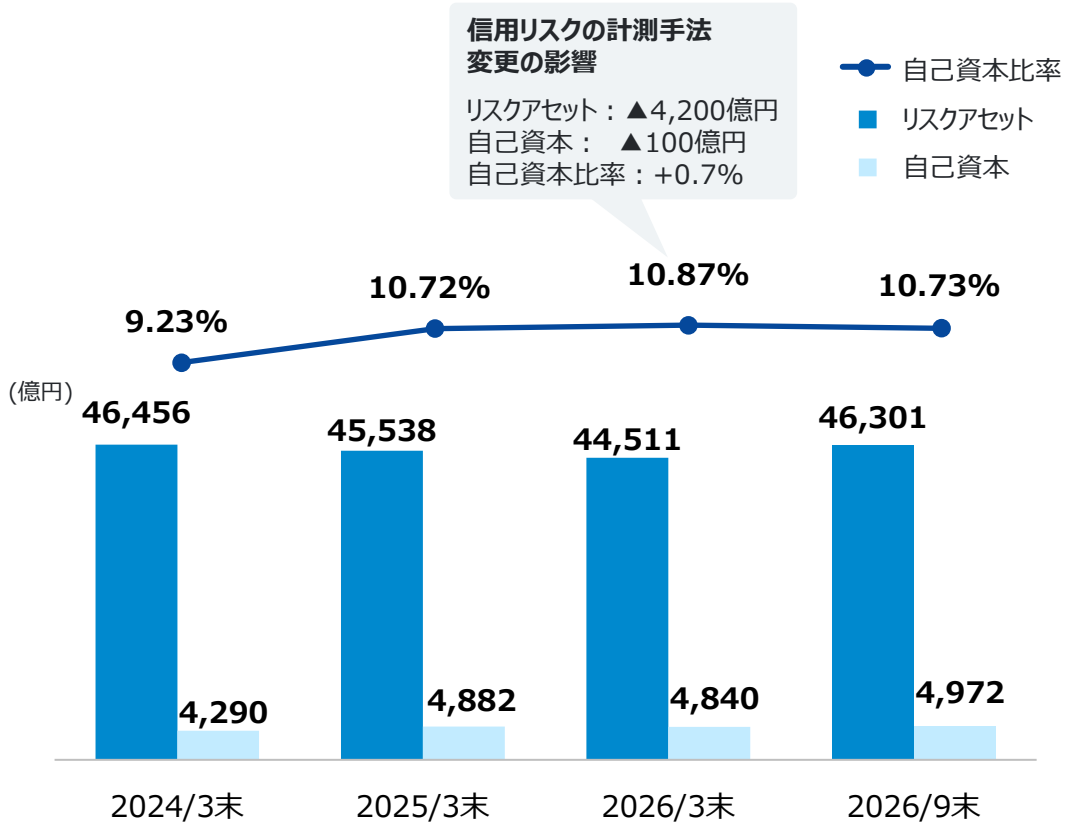
© 2026 Aozora Bank, Ltd.

自己資本比率（速報値）

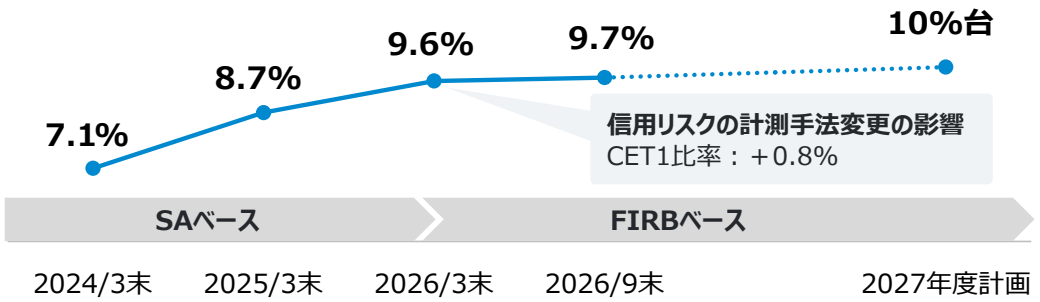
国内基準

（単位：億円）

	2025年3月末	2026年3月末 A	2026年9月末 B	増減 B - A
自己資本比率	10.72%	10.87%	10.73%	-0.14%
自己資本（A）-（B）	4,882	4,840	4,972	+132
基礎項目（A）	5,297	5,293	5,448	+155
株主資本	4,751	4,881	5,004	+123
その他	545	411	444	+33
調整項目（B）	414	452	476	+24
リスクアセット	45,538	44,511	46,301	+1,790
信用リスク・アセット	42,489	35,683	37,276	+1,593
マーケットリスク	1,776	1,655	1,671	+16
オペレーショナルリスク	1,272	1,254	1,393	+139
フロア調整額	-	5,917	5,960	+43



CET1比率（普通株式等Tier1比率）



- 2026年3月末より信用リスクの計測手法を「標準的手法（SA）」から「基礎的内部格付手法（FIRB）」に変更しています
- 規制上、当行は国内基準行（所要自己資本比率=4%以上）ですが、海外向け貸出の大きさ等から、より高度なリスク管理や資本管理を目指す考えに基づき、国際統一基準のCET1比率を意識した運営を行っています

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

中期経営計画「AOZORA2027」
進捗状況

03

中期経営計画「AOZORA2027」の進捗

KPIの進捗状況

	2024年度 実績	2025年度 実績	2026年度計画	2026年度 中間期実績	2027年度 計画	2029年度 目標
親会社株主純利益	205億円	257億円	**270億円**	**189億円**	**330億円**	500億円
ROE	4.9%	5.5%	**-**	**-**	**7%程度**	8%以上
CET1比率 （2025年度実績よりFIRBベース）	8.7%	9.6%	**-**	**9.7%**	**10%台**	10%台
運用資産残高[*1]	4.5兆円	4.7兆円	**-**	**4.9兆円**	**5.5兆円**	-
大和証券グループとの提携効果（業務純益ベース）	-	35億円	**65億円**	**64億円**[*2]	**100億円**	-

3つの成長ドライバー

1. **国内を中心とした投資銀行ビジネスの成長**
2. **大和証券グループとの提携によるシナジー効果発揮**
3. **GMOあおぞらネット銀行の成長**

*1 貸出と有価証券の合計から政府向け貸出や国債等を除いたもの。管理会計ベース
*2 約定ベース

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

① 投資銀行ビジネス －LBOローン－

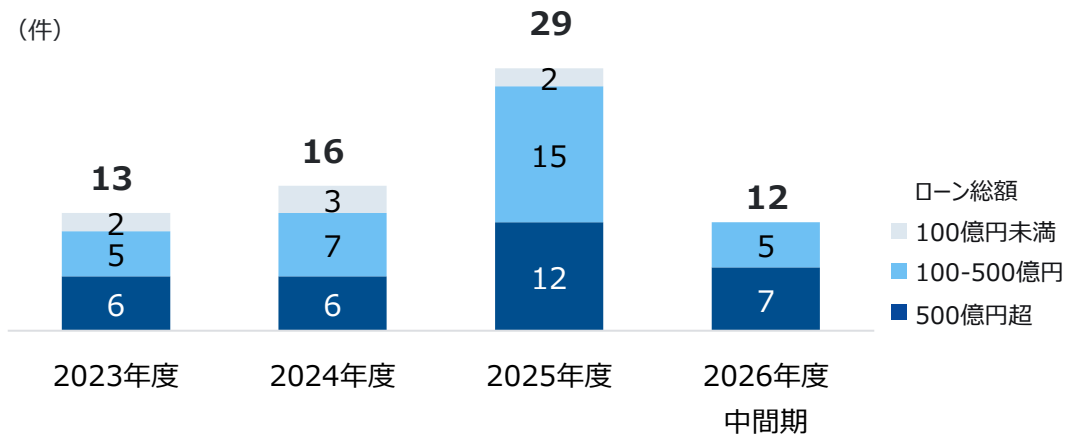
環境認識

- M&A等国内企業のコーポレートアクション増加に伴い、LBOローン市場も引き続き拡大
- 市場拡大に伴いLBOローン件数も増加、案件の大型化により組成額の規模も拡大

中間期実績

- ソーシングルートであるPEファンドとの強固なリレーションのもと、大型案件にかかるアレンジ件数のシェアは、引き続き国内トップクラスを維持しており、2026年度中間期のアレンジ件数は**12件**
- 大和証券グループと複数の案件で協業が進捗
- 6行が共同で、国内LBOローンの提供を目的とした**プライベート・デット・ファンド**を設立、始動

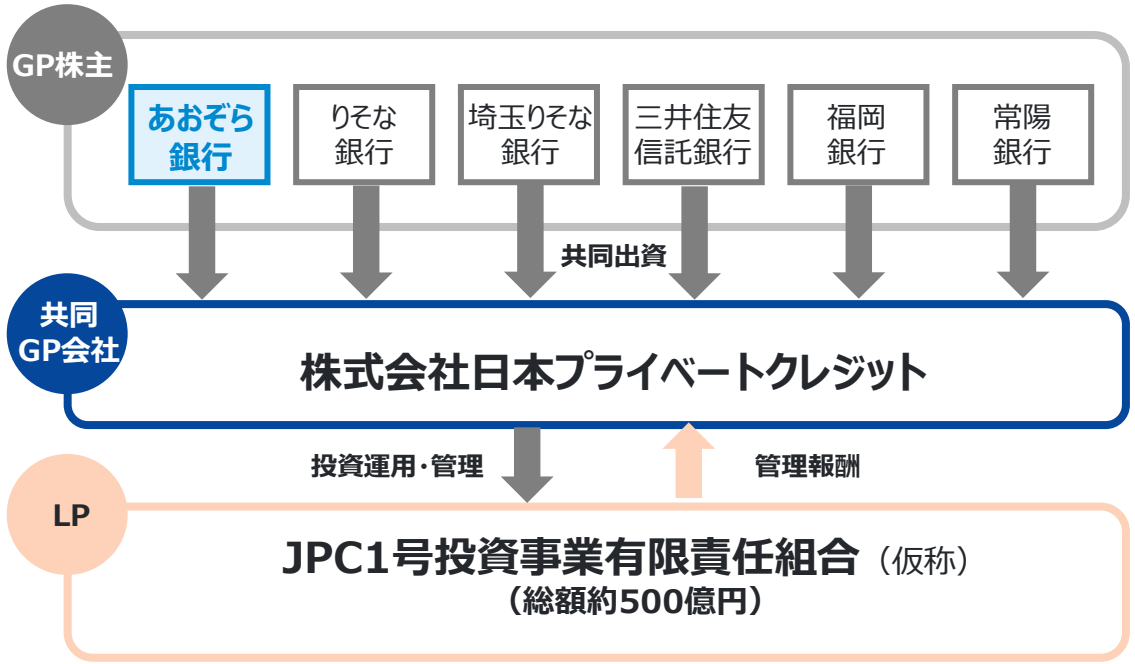
当行アレンジ件数推移



プライベート・デット・ファンドの設立

- 国内LBO市場においては、需要が大型化、高度化し、今後も中長期的な成長が見込まれる中、資金供給者が一部の金融機関に限られていることが課題
- 新たな資金供給者としてのプライベート・デット・ファンドが加わることにより、企業の構造改革や成長投資等を金融面から支え、LBOローン市場の健全な成長を後押しし、日本経済活性化への貢献を目指す

スキーム図



© 2026 Aozora Bank, Ltd.

① 投資銀行ビジネス －コーポレートローン・エクイティ投資－

コーポレートローン

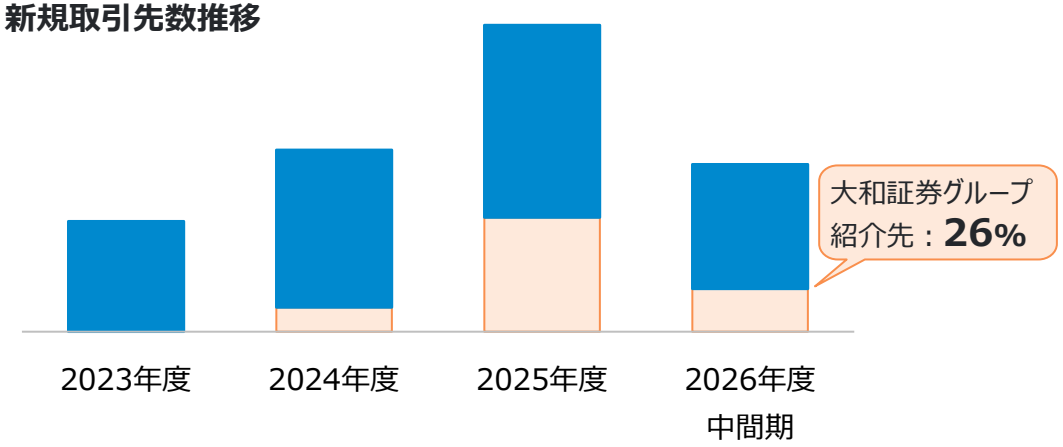
環境認識

- 投資拡大や物価高による資金需要が増加する中、国内金利上昇や事業環境変化を背景に、資金調達構造の最適化や調達先の分散化を検討する企業が増加
- スタートアップ向けエクイティ投資が鈍化する中、新たなリスクマネー調達手段としてデット調達ニーズが拡大
- 地方銀行が相次いでスタートアップ向け融資に参入しており、供給側の競争も増加

中間期実績

- 大和証券グループからの紹介に加え、完済先へのアプローチもあり与信先数が増加（2026/3末比+6.5%）。高クレジット先が中心
- 大和証券グループからの紹介によるM&Aアドバイザリー1号案件をクローズ
- スタートアップ向けベンチャーデットファンド「あおぞら HYBRID4号投資事業有限責任組合」（総額150億円）を設立

新規取引先数推移



エクイティ投資

環境認識

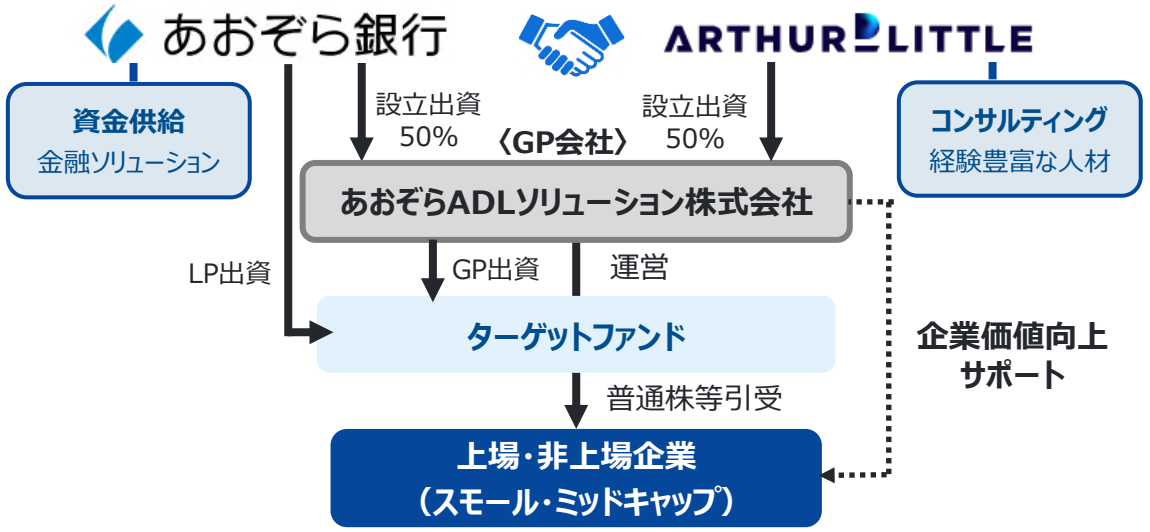
- 活況なM&A市況を背景に、バイアウトファンドをはじめとしてエグジット件数および売却価格が高水準で推移

中間期実績

- 大型のバイアウト関連のエグジットが中間期の組合出資利益を牽引。引き続きヴィンテージを意識しつつ残高を積み上げ

アーサー・ディ・リトル社とのJV設立

- スモール・ミッドキャップ企業の企業価値向上支援をテーマに、ファンド運営会社「あおぞらADLソリューション」を設立。投資先の現経営体制を維持しつつ、資本性資金とコンサルティングを提供することで成長をサポート



© 2026 Aozora Bank, Ltd.

② 大和証券グループとの提携

主な協業分野					
	法人ビジネス	コーポレート（成長企業支援含む）	不動産関連ビジネス	個人ビジネス	ウェルスマネジメント
		その他（アセットファイナンス、信託等）	M&A		

提携効果

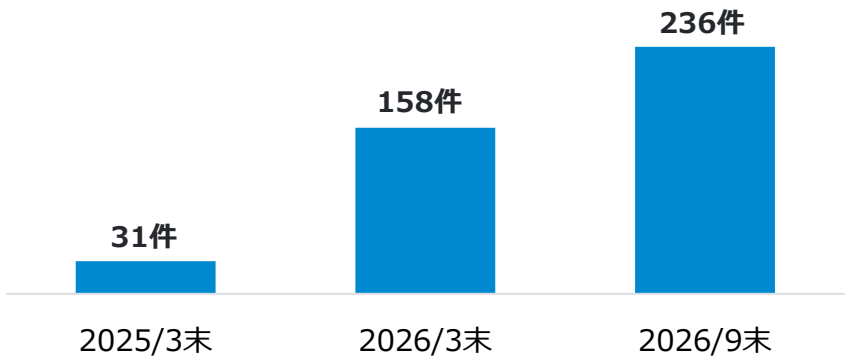
	2025年度　実績	2026年度中間期　実績	2026年度 計画	2027年度　目標
実質業務純益	35億円	**64億円（約定ベース）**	**65億円**	**100億円**
ファイナンス実行額（累計）	2,860億円	**5,314億円**	**5,600億円**	**7,300億円**
ファンドラップ残高（累計）	674億円	**943億円**	**1,000億円**	**-**[*1]

- 情報共有同意書[*2]取得数ならびに新規約定件数（累計）ともに増加しており、顧客基盤の拡大に貢献
- 2025年10月に開始した大和証券提供のファンドラップの販売は想定以上の進捗、残高は近々にも今年度計画に到達する見込み

情報共有同意書[*2]取得数



大和証券グループの紹介による新規約定件数（累計）



*1 今後設定予定
*2 証券会社と銀行間のファイアーウォール規制を踏まえ、相互の顧客紹介にあたり顧客より事前に「情報共有同意書」を取得するもの

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

③ GMOあおぞらネット銀行

中間期の実績・取り組み

- 東京商工リサーチのメインバンク調査においてメイン企業数の増加率ランキング3年連続 （2024～2026年）第1位を獲得
- 外部との提携を通じて、中小法人・スタートアップ企業の多様な資金調達ニーズに対応するビジネスローンとファクタリングサービスを開始

今後の施策・方針

- AI銀行化構想：法人のお客さまからも、AIからも「選ばれる銀行」へ

第1領域
お客さまのための AI銀行
- 1お客さま＝1エージェント
- 究極のパーソナライズドサービス

第2領域
銀行そのものを AI変革
- 社員400名を40,000名分のパワーへ
- すべての業務をエージェント化
- 業務変革＆組織再編成

第3領域
AIのための AI銀行
- AI対応型API（AIエージェントのAPI）
- MCP (Model Context Protocol) 公開

3領域でのAIエージェント化を同時宣言

Ai 銀行 by GMOあおぞら

2026年5月時点

1	業務粗利益	150億円
2	法人口座数	25万口座
3	BaaS契約数	1,100件規模

5年後（2031年3月末） 倍増

1	業務粗利益	300億円
2	法人口座数	50万口座
3	BaaS契約数	2,000件規模

ROE：20%以上

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

部門別・グループ会社実績

04

部門別実績*1

（単位：億円）	粗利益				実質業務純益					
	2025年度中間期	2026年度中間期	前年同期比 増減	前年同期比 増減率	2025年度中間期	2026年度中間期	前年同期比 増減	前年同期比 増減率	2026年度計画	進捗率
投資銀行部門	312	**350**	+37	+12%	207	**231**	+23	+12%	345	67%
市場国際部門	116	**102**	-14	-12%	53	**50**	-2	-6%	160	32%
うち、レガシー資産	-31	-99	-68	-	-31	-99	-68	-	-	-
カスタマーリレーション部門	54	**60**	+5	+10%	4	**14**	+9	+192%	18	79%
GMOあおぞらネット銀行	57	**95**	+37	+66%	2	**22**	+20	+948%	-	-
その他*2	-19	**-21**	-1	-	-54	**-52**	+1	-	-	-
合計	**521**	**586**	**+65**	**+12%**	**213**	**266**	**+52**	**+25%**	**440**	**61%**

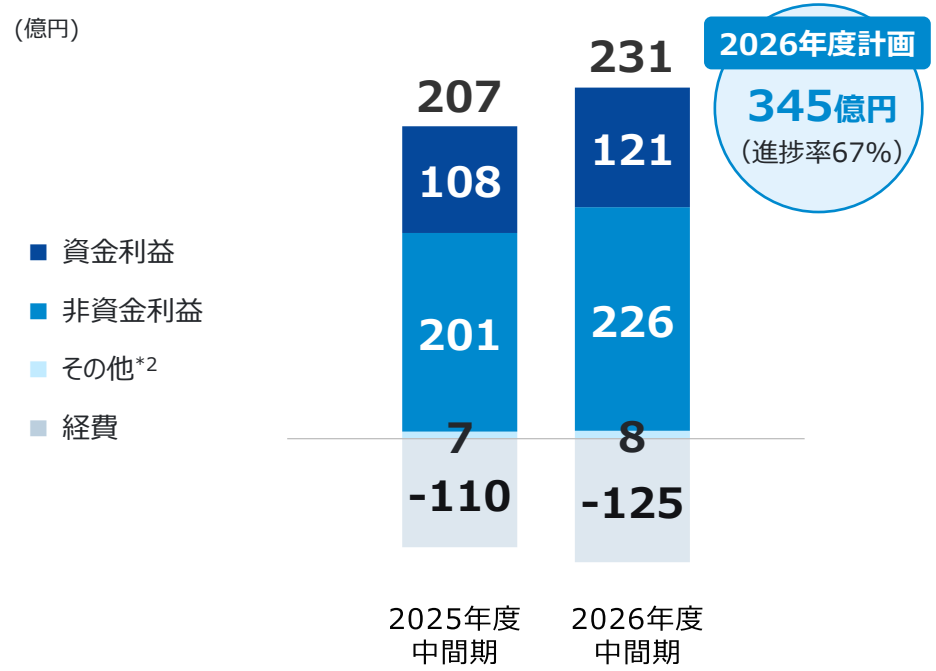
*1 管理会計ベース
*2 「その他」には部門に含まれない損益（各部門に未配賦の経費、部門に属さない株式売却損益等）および純投資株式の売却損益、調達貢献にかかる収益の調整を含む

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

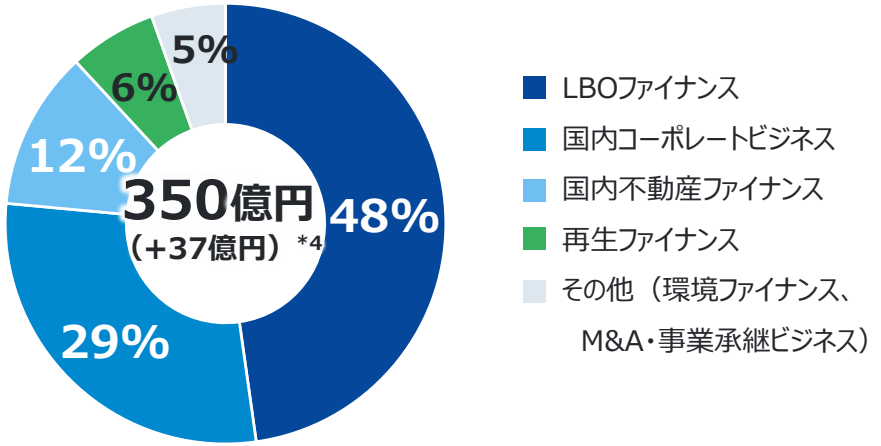
部門別実績*1 ― 投資銀行部門 ―

- 貸出残高増加等による資金利益増加に加え、顧客ニーズを捉えたデリバティブ販売収益、バイアウト関連のエグジットによる組合出資利益が伸長し、非資金利益も着実に増加。LBOローンの貸出関連手数料は高水準の実績を維持

実質業務純益内訳



ビジネス別粗利益*3



投資銀行部門の主なビジネス

- LBOファイナンス
- 国内不動産ファイナンス
- 再生ファイナンス
- 環境ファイナンス
- M&A・事業承継ビジネス
- 国内コーポレートローン
- ベンチャーデット
- エンゲージメント投資

◆・・・大和証券グループとの協業分野

*1 管理会計ベース
*2 その他には「持分法投資損益」、「株式等関係損益等」および「調達貢献」等を含む
*3 各ビジネス所管の粗利益より算出
*4 前年同期比

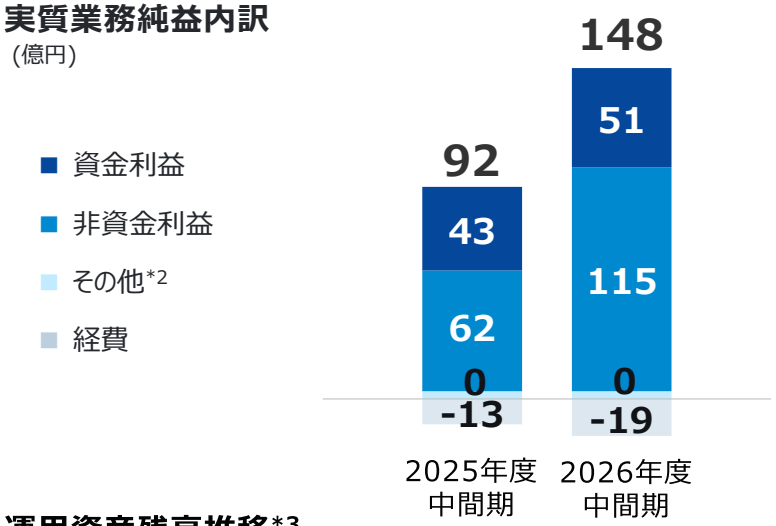
© 2026 Aozora Bank, Ltd.

部門別実績*1 – 投資銀行部門の主なビジネス –

LBOファイナンス

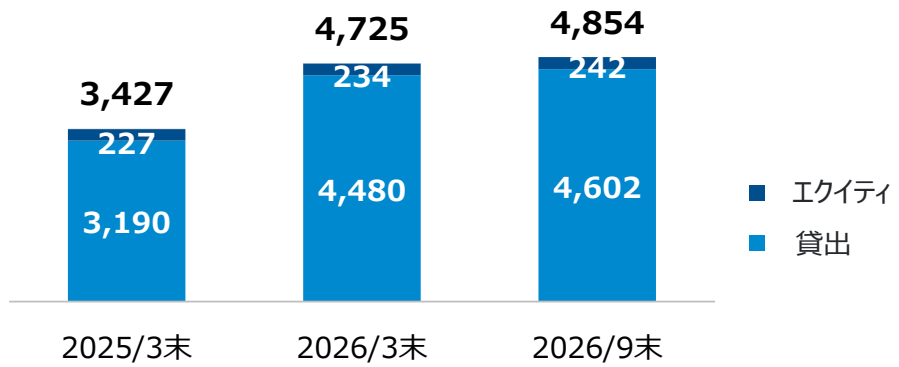
実質業務純益内訳

(億円)



運用資産残高推移*3

(億円)

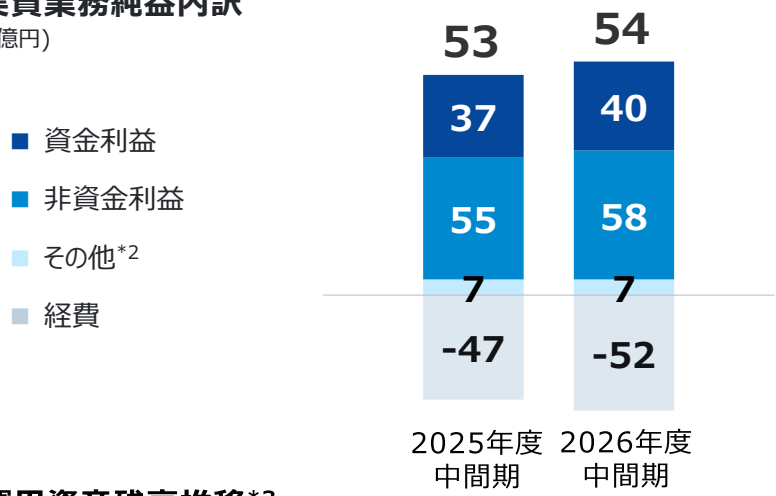


国内コーポレートビジネス

（国内コーポレートローン、ベンチャーデット、エンゲージメント投資）

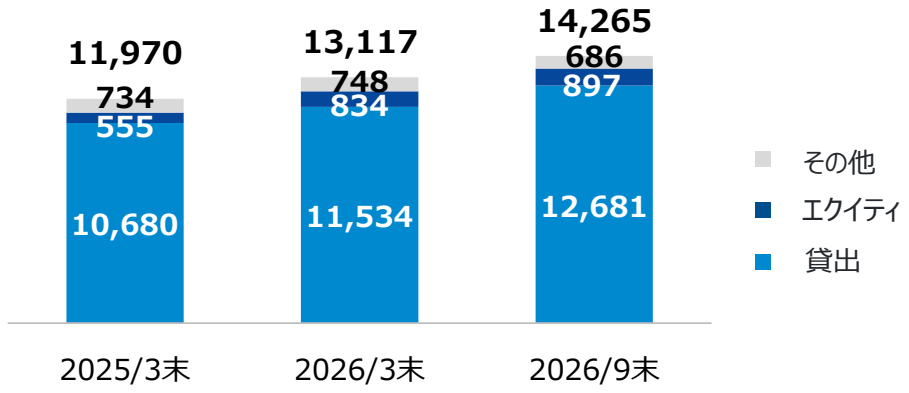
実質業務純益内訳

(億円)



運用資産残高推移*3

(億円)



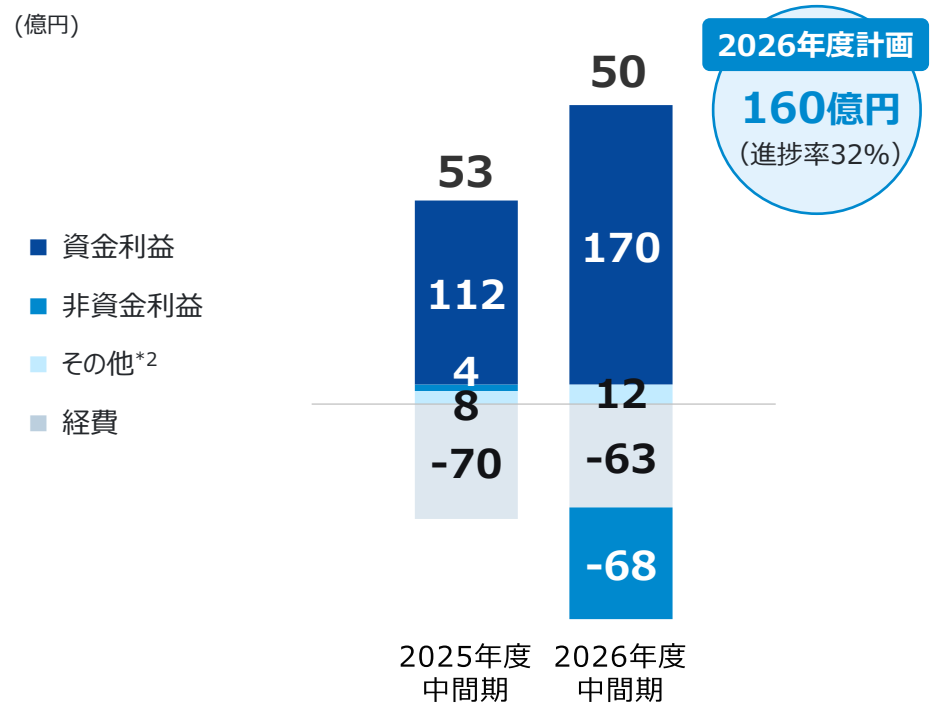
*1 管理会計ベース
*2 その他には「持分法投資損益」、「株式等関係損益等」および「調達貢献」等を含む
*3 各ビジネス所管部署の運用資産残高

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

部門別実績*1 – 市場国際部門 –

- マーケットビジネスでは、円金利上昇を踏まえたALM運営が奏功し資金利益が大きく増加、レガシー資産のうちクレジットETFの売却を加速
- 海外コーポレートローンはクオリティを重視した運営を継続し、安定した資金利益を計上

実質業務純益内訳

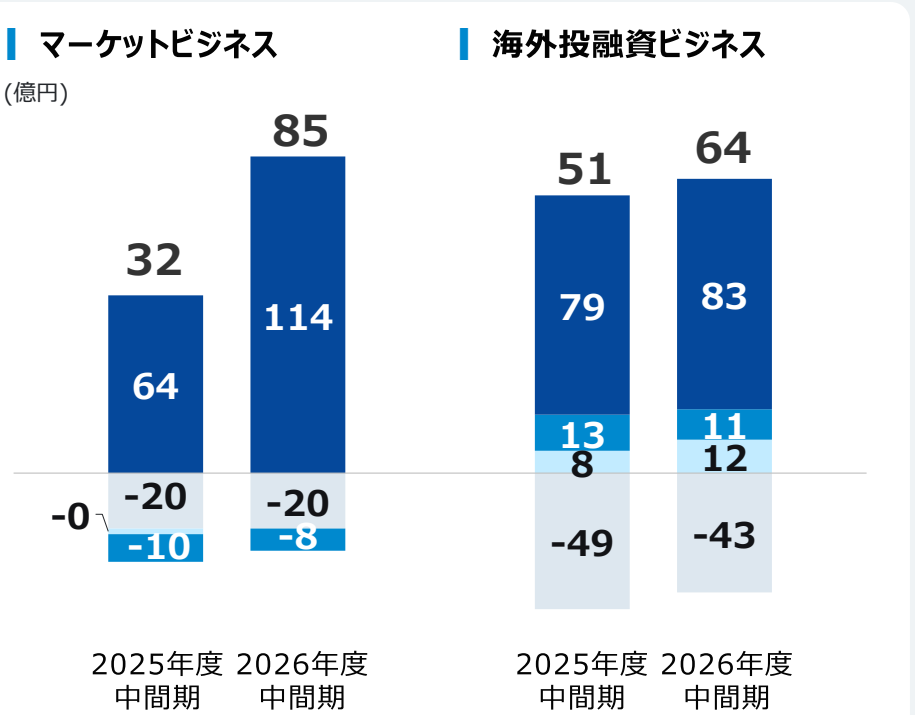


市場国際部門の主なビジネス

◆ マーケット業務 ◆ 海外コーポレートローン ◆ 海外不動産ノンリコースローン

*1 管理会計ベース
*2 その他には「持分法投資損益」、「株式等関係損益等」および「調達貢献」等を含む

ビジネス別実質業務純益内訳（レガシー資産除く）



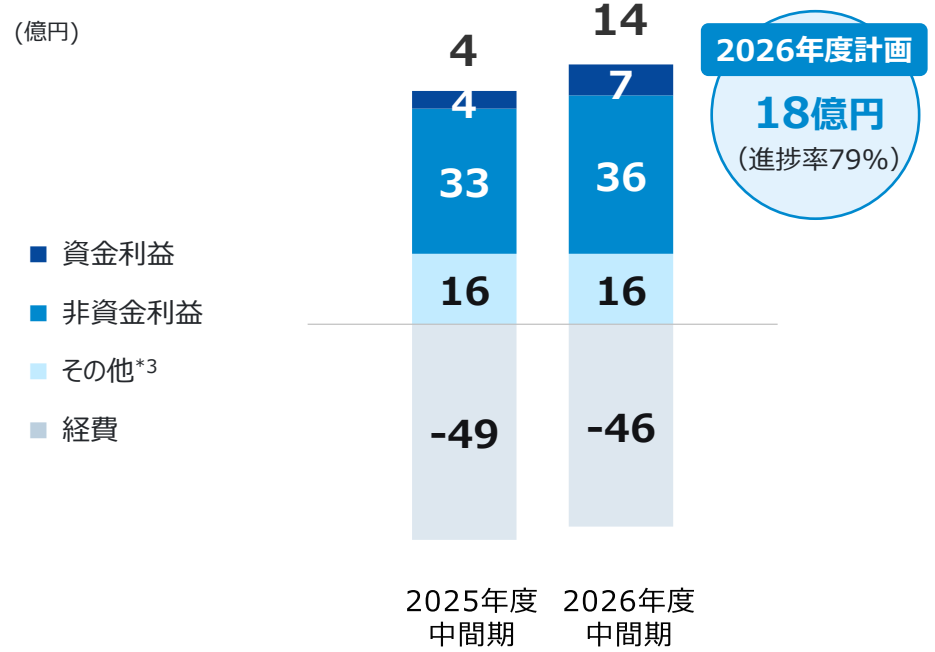
レガシー資産分	2025年度中間期：▲31億円
	2026年度中間期：▲99億円

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

部門別実績*1 ― カスタマーリレーション部門 ―

- 地域金融機関とのネットワークを活用し、シンジケートローン取引金額ではメガバンクに次ぐポジション（2025年度はリーグテーブル4位*2の実績）
- 個人顧客向けの預り資産残高（ファンドラップと投資信託の合計）は順調に増加し、非資金利益が増加

実質業務純益内訳

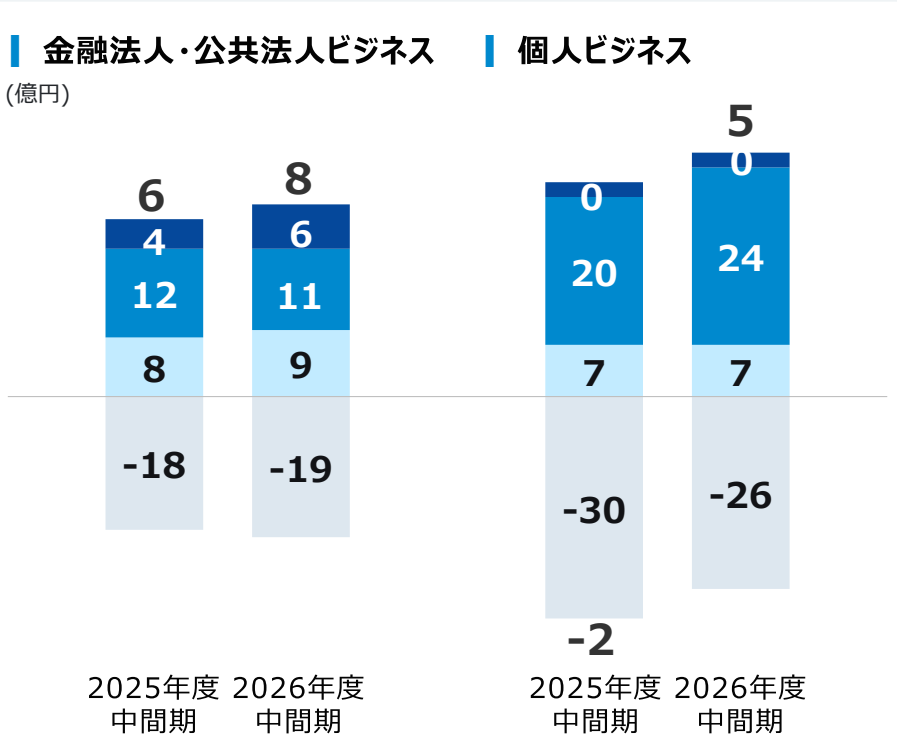


カスタマーリレーション部門の主なビジネス

- ◆ 金融法人・公共法人ビジネス　（金融法人ネットワーク・資産流動化ビジネス）
- ◆ 個人ビジネス　（預金・資産管理型ビジネス）

◆・・・大和証券グループとの協業分野

ビジネス別実質業務純益内訳



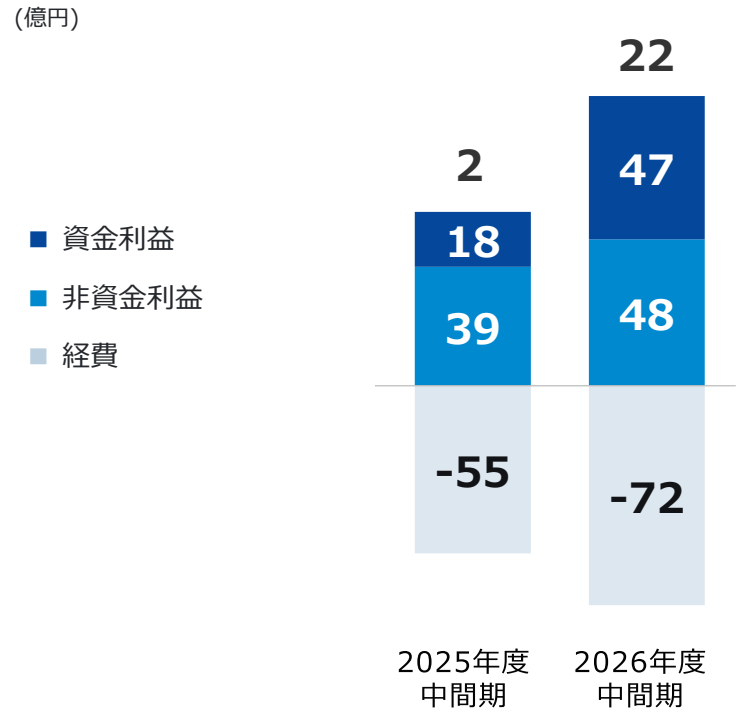
*1 管理会計ベース
*2 LSEG（マンデートアレンジャー部門）
*3 その他には「持分法投資損益」、「株式等関係損益等」および「調達貢献」等を含む

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

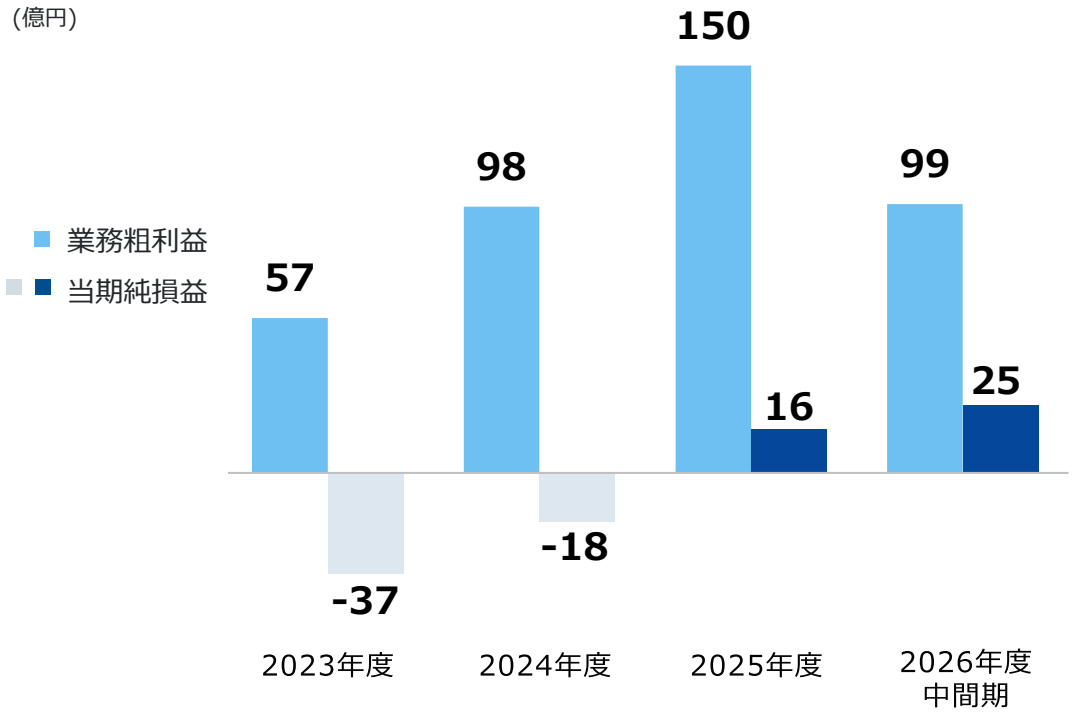
部門別実績 – GMOあおぞらネット銀行 –

- 法人分野の競争が激化する中、法人口座数・預金残高は堅調
- 円金利上昇・預金残高増加に伴う資金利益増加、顧客基盤の拡大による非資金利益の底堅さにより、為替手数料の引下げ影響を吸収しつつ実質業務純益は大きく伸長
- 当期純利益*1は期初計画を上回る進捗

実質業務純益内訳*2



業務粗利益・当期純損益推移*1

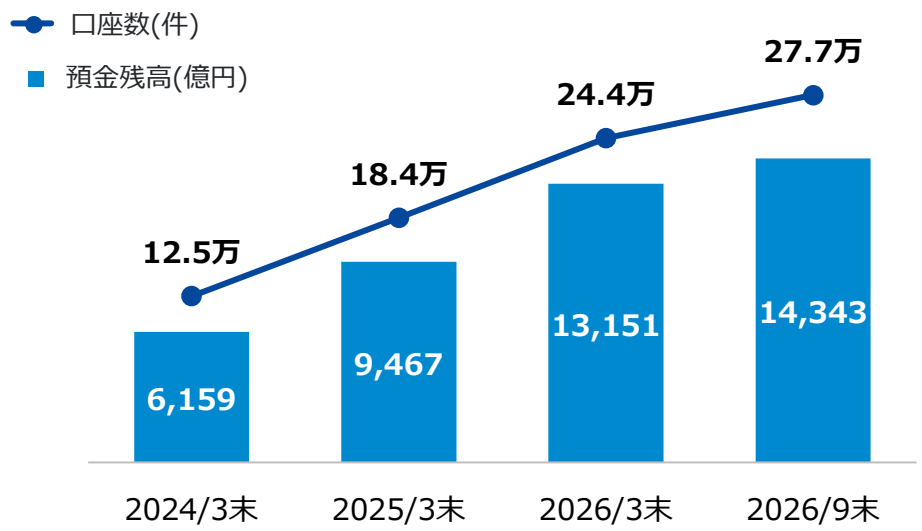


*1 GMOあおぞらネット銀行単体ベース
*2 管理会計ベース

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

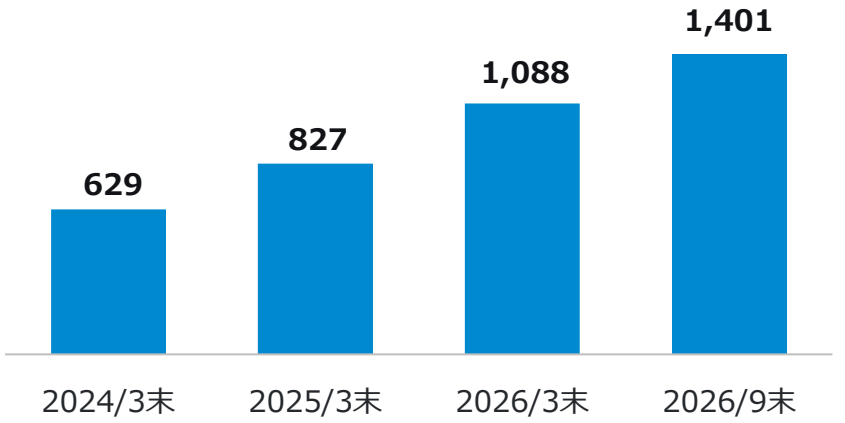
部門別実績 – GMOあおぞらネット銀行 –

法人口座数・預金残高

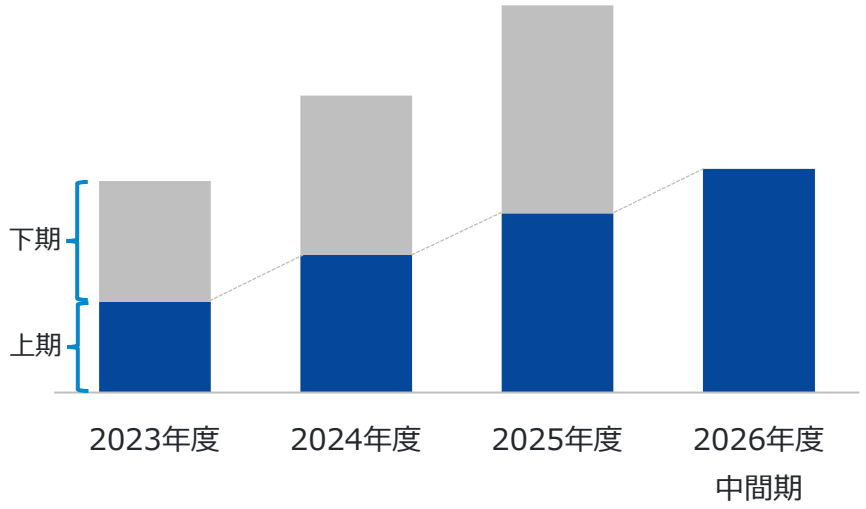


「BaaS byGMOあおぞら」契約数累計

「BaaS byGMOあおぞら」は銀行機能を金融・非金融事業者に提供するサービス。
利用企業は業務効率化や金融サービスの創出が可能となる



為替件数



© 2026 Aozora Bank, Ltd.

当行および主要連結子会社等の実績・連単差

（単位：億円）

A 単体純利益	129
B 親会社株主純利益	189
B-A 連単差	60

連単差の内訳

	所有割合[*1]	業務粗利益	当期純利益	
GMOあおぞらネット銀行	50.0% [*2]	99	25	
あおぞら債権回収	67.6%	5	-1	
あおぞらHRラボ&コンサルティング	100.0%	0	-0	
あおぞら投信	100.0%	13	5	
あおぞら不動産投資顧問	100.0%	1	0	
あおぞらコーポレートアドバイザリー	100.0%	2	0	
あおぞら企業投資	100.0%	4	2	
Aozora Europe Limited	100.0%	4	1	
Aozora North America, Inc.	100.0%	25	15	
Orient Commercial Joint Stock Bank	15.0%	-	14	[*3]
非支配株主純損益（GMOあおぞらネット銀行）		-	-11	
その他		-	7	[*4]

*1 親会社の損益に帰属する割合
*2 議決権所有割合は85.1%
*3 持分法投資損益の取込額
*4 その他には、その他子会社及び連結調整を含む

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

参考：統合報告書2026

2026年7月に「**統合報告書2026**」を発行。これまで培ってきた強み等をご紹介





統合報告書はこちらから ⬇

QRコード：

URL：

https://www.aozorabank.co.jp/ir/library/disclosure/pdf/IntegratedReport2026_main.pdf

© 2026 Aozora Bank, Ltd.

可能性をつくる

あおぞら銀行

本件お問合せ先

株式会社あおぞら銀行
コーポレートコミュニケーション部

〒102-8660 東京都千代田区麹町６丁目１－１
Tel:　03-6752-1218
Mail:　azbk001@aozorabank.co.jp
URL:　https://www.aozorabank.co.jp/

当資料には、当行の財務状況や業績など将来の見通しに関する事項が含まれています。こうした事項には当行における将来予想や前提が含まれており、一定のリスクや不確実性が生じる場合があります。具体的には、経済情勢の変化や金利・株式相場・外国為替相場の変動、およびそれらに伴う保有有価証券の価格下落、与信関連費用の増加、事務・法務その他リスクの管理規則の有用性などにより、実際の結果とは必ずしも一致するものではありません

© 2026 Aozora Bank, Ltd.